

令和8年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

理学療法学科

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

令和8年度

カリキュラム

理学療法学科カリキュラム(令和7年度・8年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 16単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 16単位	心 理 学	2	15	30							
		情 報 科 学	1	30	30							
		生 化 学	2	15	30							
		統 計 学	2	15	30							
		人 間 工 学	1	30			30					
		物 理 学	1	30	30							
		健 康 科 学	1	30	30							
		医 学 英 語	2	15		30						
		人 間 育 成 学 I	2	15	30							
人 間 育 成 学 II	2	15			30							
基 礎 分 野 合 計			16		210	30	60	0	0	0	0	0
専門基礎分野 31単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	解 剖 運 動 学 I	1	30	30							
		解 剖 運 動 学 II	1	30		30						
		体 表 面 解 剖 学 I	1	30	30							
		体 表 面 解 剖 学 II	1	30		30						
		解 剖 生 理 学 I	1	30	30							
		解 剖 生 理 学 II	1	30		30						
		解 剖 生 理 学 III	1	30	30							
		解 剖 生 理 学 IV	1	30	30							
		生 理 学 演 習	2	15		30						
		人 間 発 達 学	1	30		30						
		解 剖 学 実 習	1	30				30				
		小 計	12		150	150	0	30	0	0	0	0
		疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	臨 床 心 理 学	1	30		30					
一 般 臨 床 医 学	1		30			30						
リハビリテーション診断学	1		30				30					
リハビリテーション整形外科	2		30				60					
リハビリテーション神経学I	1		30			30						
リハビリテーション神経学II	1		30				30					
リハビリテーション内科学I	1		30			30						
リハビリテーション内科学II	1		30				30					
精 神 医 学	1		30			30						
小 児 科 学	1		30			30						
老 年 学	1		30		30							
病 理 学	1	30		30								
リハビリテーション栄養学・薬理学	1	30				30						
小 計	14		0	90	150	180	0	0	0	0		
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 5単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30								
	理 学 療 法 概 論	2	15		30							
	保 健 医 療 福 祉 論	1	30			30						
	小 計	5		30	30	30	0	0	0	0		
専 門 基 礎 分 野 合 計			31		180	270	180	210	0	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

理学療法学科カリキュラム(令和7年度・8年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		4年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野	基礎理学療法学 15単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30			30							
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30							
		日常生活活動学	1	30			30							
		理学療法研究論Ⅰ	2	15		30								
		理学療法研究論Ⅱ	2	15				30						
		理学療法研究論Ⅲ	2	15						30				
		スポーツ科学Ⅰ	1	30		30								
		スポーツ科学Ⅱ	1	30				30						
		スポーツ科学Ⅲ	1	30					30					
		スポーツ科学Ⅳ	1	30						30				
		理学療法総合演習	2	15									30	
	小計	15				0	60	120	60	30	30	0	30	
	理学療法管理学 2単位	理学療法管理学	2	15							30			
		小計	2			0	0	0	0	0	30	0	0	
	理学療法評価学 6単位	理学療法評価学Ⅰ	1	30		30								
		理学療法評価学Ⅱ	2	30				60						
		理学療法評価学Ⅲ	1	30					30					
		理学療法評価学演習	1	30						30				
		動作分析セミナー	1	30							30			
		小計	6			0	30	60	60	30	0	0	0	
	理学療法治療学 28単位	運動療法学	1	30				30						
		物理療法学	1	30						30				
		義肢学	1	30							30			
		装具学	1	30								30		
		パラスポーツ	1	30					30					
		トレーニング理論	1	30							30			
		スポーツ傷害の理学療法	1	30							30			
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	1	30						30				
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	1	30							30			
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	30							30			
		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	1	30							30			
		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	1	30							30			
		内部障害の理学療法Ⅰ	1	30							30			
		内部障害の理学療法Ⅱ	1	30							30			
		内部障害の理学療法Ⅲ	1	30								30		
		発達障害の理学療法	1	30								30		
		骨関節系理学療法演習	1	30								30		
		神経系理学療法演習	1	30								30		
		ペーパーペイシェントセミナーⅠ	2	15								30		
		ペーパーペイシェントセミナーⅡ	2	15								30		
		ペーパーペイシェントセミナーⅢ	2	15								30		
		理学療法セミナー	2	15									30	
		卒業研究	2	15										30
	小計	28				0	0	30	60	270	270	30	30	
	地域理学療法学 5単位	地域理学療法学	1	30						30				
		生活環境学Ⅰ	2	15					30					
		生活環境学Ⅱ	2	15						30				
		小計	5				0	0	0	30	60	0	0	
	臨床実習 21単位	見学実習	1	45		45								
		評価実習Ⅰ	2	45				90						
		評価実習Ⅱ	2	45						90				
		総合臨床実習Ⅰ	8	45								360		
		総合臨床実習Ⅱ	8	45								360		
		小計	21				0	45	0	90	0	90	720	0
	専門分野合計			77			0	135	210	300	390	420	750	60
	総合計			124	3405	390	435	450	510	390	420	750	60	

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。
 ※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

理学療法学科カリキュラム(令和6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位	心理学	2	15	30					
		情報科学	1	30	30					
		生化学	2	15	30					
		統計学	2	15				30		
		人間工学	1	30			30			
		物理学	1	30	30					
		コミュニケーション論	1	30	30					
		英語	2	15				30		
		人間育成学Ⅰ	1	30	30					
		人間育成学Ⅱ	1	30				30		
基礎分野合計			14		180	30	90	0	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	解剖運動学Ⅰ	2	30	60					
		解剖運動学Ⅱ	2	30	60					
		解剖生理学Ⅰ	3	30	90					
		解剖生理学Ⅱ	3	30	90					
		解剖学実習	1	30			30			
		人間発達学	1	30			30			
		小計	12		300	60	0	0	0	0
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	臨床心理学	1	30			30			
		一般臨床医学	2	30			60			
		リハビリテーション診断学	2	30				60		
		リハビリテーション整形外科学	2	30				60		
		リハビリテーション神経学	2	30				60		
		リハビリテーション内科学	2	30				60		
		精神医学	1	30				30		
小児科学	1	30				30				
老年学	1	30					30			
小計	14		0	330	90	0	0	0		
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 4単位	リハビリテーション医学概論	2	15	30						
	理学療法概論	1	30			30				
	保健医療福祉論	1	30				30			
	小計	4		30	30	30	0	0	0	
専門基礎分野合計			30		330	420	120	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

理学療法学科カリキュラム(6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎理学療法学 6単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅲ	1	30			30			
		基礎理学療法学Ⅳ	1	30			30			
		日常生活活動学	1	30			30			
		理学療法研究論	1	30				30		
	小計	6		0	0	150	30	0	0	
	理学療法管理学 2単位	理学療法管理学	2	15					30	
		小計	2		0	0	0	0	30	0
	理学療法評価学 6単位	理学療法評価学Ⅰ	2	30		60				
		理学療法評価学Ⅱ	2	30			60			
		理学療法評価学Ⅲ	1	30				30		
		動作分析セミナー	1	30				30		
	小計	6		0	60	60	60	0	0	
	理学療法治療学 20単位	運動療法学	3	30			90			
		物理療法学	1	30				30		
		義肢装具学Ⅰ	1	30			30			
		義肢装具学Ⅱ	1	30				30		
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2	30				60		
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	30				30		
中枢神経疾患の理学療法Ⅰ		2	30				60			
中枢神経疾患の理学療法Ⅱ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅰ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅱ		1	30				30			
内部障害の理学療法Ⅲ		1	30				30			
発達障害の理学療法		1	30				30			
ペーパーペーシェントセミナー		2	30						60	
小計	20		0	0	120	420	60	0		
地域理学療法学 3単位	地域理学療法学	1	30				30			
	生活環境学Ⅰ	1	30			30				
	生活環境学Ⅱ	1	30				30			
	小計	3		0	0	30	60	0	0	
臨床実習 21単位	見学実習	1	45		45					
	評価実習Ⅰ	2	45			90				
	評価実習Ⅱ	2	45				90			
	総合臨床実習Ⅰ	8	45					360		
	総合臨床実習Ⅱ	8	45						360	
小計	21		0	45	90	90	360	360		
専門分野合計			58		0	105	450	660	450	360
総合計			102	3195	510	555	660	660	450	360

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。 生活場面における環境や行動において心理学が関係していることに関心を持てるようにする。			
授業終了時の到達目標			
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
以下に記されているテーマならびに講義内容について、テキストを読んで、事前学習に努める。また、授業で説明した内容の振り返りを行う。			
回	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 心理学とは	心理学を学ぶこと 心理学の各領域の紹介	
2	知覚	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境	
3	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力	
4	記憶	記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶	
5	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待	
6	学習、記憶、発達の復習	国家試験過去問題を通じて、学習、記憶、発達の復習を行う	
7	青年1	青年期とは、友情と恋愛	
8	青年2	アイデンティティの探求、青年期の時間的展望	
9	性格1	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因	
10	性格2	性格検査（質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト）	
11	自己	自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己	
12	家族	家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理	
13	こころの病気と健康 認知行動療法	こころの健康性、精神障害、思春期・青年期の心の病理 認知行動療法の説明	
14	社会	対人認知、コミュニケーションと対人行動	
15	まとめ	講義7回目～14回目までの内容を中心に、国家試験過去問題 を通じて復習する	
教科書・教材		評価基準	評価率
『Crosslink basic リハビリテーション テキスト 心理学・臨床心理学』株式会社 メジカルビュー社		期末試験	100%
			その他
			授業内に1度は発言 する機会を設ける

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
情報科学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		廣永 大祐	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> すべてのビジネスパーソンが身に付けるべきリテラシーを学ぶ データサイエンティストの思考を学ぶ ・ ChatGPTの仕組み・使い方を理解し、留意点を学ぶ AIの全体像を理解する、生成AIの全体像を理解する ・ AIに入力するプロンプトの作成を理解する DXを理解し、日常をDXに置き換えて変化させることができる 				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。さらにオンライン通信や文献検索の方法を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業の復習を行い自習すること。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	・ 授業の進め方・DX・AIとは (使える人材となるために)		
2	DXリテラシー_I	第1章 活用事例(How)からDXの背景(Why)を知る 第2章 デジタル技術(What)を知る		
3	DXリテラシー_II	第3章 デジタルツールの活用例(How)を知る 第4章 デジタルツール利用での留意点(How)を知る		
4	紙とえんぴつで始めるデータサイエンス入門_I	第1章 デジタル時代に必要なデータリテラシー 第2章 データを読む力を身につける		
5	紙とえんぴつで始めるデータサイエンス入門_II	第3章 データから予測する力を身につける① 第4章 データから予測する力を身につける②		
6	LLMリテラシー_I	1. LLM/ChatGPTとは -ChatGPTで何ができるの? -生成AI(Generative AI)とは?		
7	LLMリテラシー_II	2. ChatGPTの利用準備 3. ChatGPTを使ってみよう 4. LLMの活用事例		
8	イメージで理解するAI/生成AI_I	AIの基礎 AIを理解するための全体像 AIモデルの作り方		
9	イメージで理解するAI/生成AI_II	識別と生成		
10	ユースケースで理解する生成AI_I	1. イントロダクション 2. 生成AI概要の復習		
11	ユースケースで理解する生成AI_II	3. 実践: 業務で活用できるユースケース 4. まとめ		
12	DXマインドスタンス_I	1. DX時代のマインド・スタンスとは		
13	DXマインドスタンス_II	2. DXのマインド・スタンスを知る		
14	DXマインドスタンス_III	2. DXのマインド・スタンスを知る		
15	DXマインドスタンス_IV	3. DXマインド・スタンスを自分事化する -【演習】自らの行動目標をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
NEC eトレーニング		課題・レポート	100.0%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		佐々木 すみれ
授業の概要			
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどのように制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。			
授業終了時の到達目標			
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。			
時間外に必要な学修			
予習) 前回配布の資料を読み直すこと。 復習) 配布資料及び、教科書を読み直し理解できなかった言葉を学習する。			
回	テーマ	内容	
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ	
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ	
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶ また、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ	
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ	
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ	
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ	
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ	
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ	
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質(免疫)について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ	
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ	
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ	
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ	
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ	
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ	
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する	
教科書・教材		評価基準	評価率
はじめの一步イラスト生化学・分子生物学(羊土社)		期末試験	100%
			その他の ノートの整理や資料の見直しなど復習必須

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
統計学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎	
授業の概要				
臨床や研究に必要な統計知識を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
統計学の知識を有した状態で論文抄読が可能となり、自身も統計学を利用してデータ分析ができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 学会発表経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
予習:医学論文を読むこと 復習:復習:授業資料や教科書の該当ページを再読すること				
回	テーマ	内容		
1	統計学の基礎	統計解析の戦略と統計処理法		
2	データの尺度・特性値・グラフ	データの尺度		
3	推定と検定の基礎	推定と検定		
4	2標本の差の検定 パラメトリック法 (1)	差の検定		
5	1標本の差の検定 パラメトリック法 (2)	1標本の差の検定		
6	差の検定	ノンパラメトリック法の適用		
7	相関	相関の概略		
8	回帰分析	回帰分析の概略		
9	重回帰分析	重回帰分析の概略		
10	分割表の検定	分割表の概略		
11	一元配置分散分析	一元配置分散分析の概略		
12	反復測定分散分析	反復測定分散分析の概略		
13	信頼性係数	信頼性		
14	多重ロジスティック回帰分析	多重ロジスティック回帰分析の概略		
15	診断の指標 JATIテキスト	アウトカム 測定データの分析とデータの活用法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハビリテーション統計学 (中山書店) ・トレーニング指導者テキスト【実践編】 3訂版 (大修館書店)		期末試験	100%	研究論につなげる よう学習すること。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間工学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
・立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける。			
授業終了時の到達目標			
・ヒトの安定性に関わる因子を挙げることができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修			
予習: 解剖学(骨関節系)と運動学の教科書で該当範囲分を確認する。			
復習: 毎時間出す課題を真摯に取り組み、 \times 切を厳守する。			
回	テーマ	内容	
1	力の合力と分解	<ul style="list-style-type: none"> 力の合成の考え方 力の分かいの考え方 	
2	生体におけるテコ	<ul style="list-style-type: none"> テコを理解する テコの考え方を生体に応用する 	
3	重心の求め方	<ul style="list-style-type: none"> テコを説明できる 重心の考え方、求め方 	
4	重心の速度・加速度	<ul style="list-style-type: none"> 重心の速度、加速度を理解する 重心の速度、加速度のグラフを描く 	
5	床反力と重心速度	<ul style="list-style-type: none"> 力と重心の加速度の関係 身体に加わる加速度 	
6	床反力作用点(COP)とは何か	<ul style="list-style-type: none"> COPの意味を理解する COPと基底面、重心位置の関係性 	
7	関節モーメントと筋活動	<ul style="list-style-type: none"> 関節モーメントとは何か 関節モーメントの計算 	
8	関節モーメントのパワー	<ul style="list-style-type: none"> 力学的仕事について 筋のなす仕事が説明できる 	
9	ジャンプ動作	<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギーについて 跳躍時の床反力と重心加速度について 	
10	立ち上がりのバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上がりの重心の動き 立ち上がりの基底面の変化と床反力の変化 	
11	歩き始めのバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> 直立時の重心とCOPの位置関係 重心を全身させる原動力 	
12	歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点	<ul style="list-style-type: none"> 歩行中の重心とCOPの関係 重心の動きと床反力の関係 	
13	歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能	<ul style="list-style-type: none"> 歩行中の重心の動きを滑らかにする ロッカー機能と重心の滑らかさ 	
14	歩行のバイオメカニクス3 歩行の観察——OGIGの方法	<ul style="list-style-type: none"> OGIGの歩行用語 3つのロッカー機能 	
15	授業のまとめ	復習と知識の定着	
教科書・教材		評価基準	評価率
授業資料		期末試験 提出課題	80% 20.0%
			課題提出は出席点 も含むが公欠の場 合は除く

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
物理学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の内容と物理学との知識を融合する。 ・国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体特性の概要が理解でき、物理的な考えができる。 ・国家試験が解ける。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
予習：基礎物理程度の予習 復習：公式等の再確認				
回	テーマ	内容		
1	物理学概要①	歩行速度を測ってみよう！ 正しい測り方を考え実践、数値を正確に出す練習		
2	物理学概要②	バランス評価を体験してみよう！ FRT (functional reach test) を調べて考え実践		
3	物理学概要③	単位や計算方法を理解しよう！ 単位について、有効数字について、国家試験問題解説		
4	直線運動①	物理の基本を理解しよう！① 等速度運動、等加速直線運動について		
5	直線運動②	物理の基本を理解しよう！② 公式を使って問題が解ける、国家試験問題解説		
6	水平投射について	物理の基本を理解しよう！③ 水平投射について		
7	斜方投射について	物理の基本を理解しよう！④ ベクトルについて、斜方投射について		
8	物体の運動と力との関係	体の動きと物理との関係を模索！ 運動の三原則、椅子からの立ち上がりについて		
9	モーメント①	国家試験問題が解けるまで！① 斜面上での運動、モーメントの定義		
10	モーメント②	国家試験問題が解けるまで！② モーメントの理解、国家試験問題解説		
11	モーメント③	国家試験問題が解けるまで！③ 国家試験問題解説		
12	圧力と水圧、浮力について	心地の良い姿勢をつくろう！ 圧力の基本、水圧と浮力、国家試験問題解説		
13	仕事とエネルギーについて	体の動かし方（減量にも応用？）！ 仕事の定義、国家試験問題解説、力学エネルギー		
14	熱エネルギーについて	温熱療法の概要を理解しよう！ 熱の基本的性質、体積と圧力との関係、比熱		
15	バイオメカニクスの基礎理論 (JATI-ATI バイオメカニクス1)	運動の記述、力学の基礎（並進運動と回転運動、運動の法則、運動量と力積、慣性モーメントと角運動量、テコの種類、仕事とエネルギー、パワー）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・各種書籍、文献等 ・トレーニング指導者テキスト 理論編 3訂版（大修館書店） 		課題・レポート（発表） 期末試験	50% 50%	グループで学習する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
健康科学	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
「健康」の視点から現代社会の抱える問題と生涯にわたる運動の必要性を理解する。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 健康に影響を与える因子を説明することができる。 ライフステージにおける健康課題を挙げることができる。 健康や体力増進に果たす運動の効果について理解できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習: 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。			
復習: 授業で示されたキーワードについて理解し、自分の言葉で説明できるように復習する。			
回	テーマ	内容	
1	現代の健康観と健康問題概観	健康の定義、現代の健康問題 健康問題の発生要因、平均寿命と健康寿命	
2	心身と健康	健康診断の意義、遺伝と健康 心の健康・不健康とは、薬物依存	
3	環境と健康	環境と健康の関係 物理的環境・生物的環境・社会的環境と健康	
4	栄養と健康	三大栄養素の役割 日本の栄養課題	
5	生活習慣と健康①	我が国における健康づくり運動 喫煙と健康	
6	生活習慣と健康②	アルコールと健康 社会的損失	
7	運動と健康	身体活動と運動強度 生活習慣病に対する運動の効果	
8	世代と健康①	児童・生徒・学生の健康課題と現状 若者のメンタルヘルスと運動の効果	
9	世代と健康②	高齢者の健康 ライフステージと生涯スポーツ	
10	特別な対象のためのトレーニングプログラム①	高齢者の特性とアセスメント 高齢者のトレーニングの実際	
11	特別な対象のためのトレーニングプログラム②	発達段階に応じたトレーニングの重要性 子供に対するトレーニングの実際	
12	特別な対象のためのトレーニングプログラム③	トレーニングに影響する女性の特徴、女性特有の問題と対応、障がい者に対するトレーニング	
13	トレーニング指導者の役割	トレーニング指導者とは、指導者に対するニーズ、指導者の役割と業務、競技スポーツ分野における状況に応じた活動、指導者が身につけるべき能力、指導者に求められる資質・行動と倫理	
14	災害と健康 新たな健康問題	災害関連死、海外との比較 今後の課題	
15	健康を守る社会の仕組み	環境整備と健康づくり施策	
教科書・教材		評価基準	評価率 その他
<ul style="list-style-type: none"> テキスト健康科学 第3版 (南江堂) トレーニング指導者テキスト【実践編】3訂版 (大修館書店) 		課題 期末試験	20% 80% 提出物の期限厳守

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
理学療法士の臨床業務で使用頻度の高い医学英語について、「意味を理解する」「スペルを正確に書ける」「医療職の共通言語として使用できる」ことを目指す。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士が臨床業務で使用する基本的な医学英語を使用することができる。 ・カルテや文献に書かれている医学英語を理解することができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：教科書の該当内容を一読し、問題を解いておく。			
復習：新しく出てきた英単語を綴りと読み方、意味を復習しておく。			
回	テーマ	内容	
1	【語彙】人体の基礎知識① 【会話】挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の区分。位置についての英単語を学ぶ。 ・初回の挨拶 	
2	【語彙】人体の基礎知識② 【会話】問診	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部・顔面・上肢・下肢のパーツの英単語を学ぶ。 ・痛みの部位、種類、経緯を聞く 	
3	【語彙】人体の基礎知識③ 【会話】肢位設定	<ul style="list-style-type: none"> ・関節の運動方向・肢位を学ぶ。 ・基本的肢位の指示、応用的な肢位の指示 	
4	【語彙】人体の構造① 【会話】評価①	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な骨・関節の名称の英単語を学ぶ。 ・バイタルサインの確認 	
5	【語彙】人体の構造② 【会話】評価②	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な上肢・下肢・体幹の筋名を学ぶ。 ・自動可動域、他動可動域の測定 	
6	【語彙】人体の構造③ 【会話】評価③	<ul style="list-style-type: none"> ・関節の運動方向を英語で学ぶ。 ・体幹と頸部の可動域の測定 	
7	【語彙】人体の構造④ 【会話】評価④	<ul style="list-style-type: none"> ・内臓器・脳神経の名称を英語で学ぶ。 ・筋力測定、感覚検査 	
8	【語彙】医療の略語 【会話】評価⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテに記載されている略語の意味と使い方 ・バランス検査、歩行評価 	
9	【語彙】症候・徴候① 【会話】治療①	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な症候・徴候を学ぶ。 ・ホームエクササイズの指導 	
10	【語彙】症候・徴候② 【会話】治療②	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・内臓器の症候・徴候を学ぶ。 ・RICE処置の指導 	
11	【語彙】疾病・創傷① 【会話】ADL①	<ul style="list-style-type: none"> ・骨・筋・関節の痛みについて学ぶ。 ・移乗動作の指導 	
12	【語彙】疾病・創傷② 【会話】ADL②	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・内臓器の疾病・創傷を学ぶ。 ・食事の評価と指導 	
13	【語彙】介護・医療機器 【会話】環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子・歩行補助用具・ベッド ・適切な歩行補助用具の選択、自宅トイレの改修 	
14	【語彙】診察・治療と療法・薬剤 【会話】退院指導	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な検査、治療と療法、リハに関連する薬剤 ・退院後の生活指導 	
15	まとめ・確認テスト	まとめ・復習・知識の定着	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OTが書いた リハビリテーション英会話 (メジカルビュー社)		期末試験 確認問題・提出課題	80% 20.0%
			その他
			発音、会話練習は積極的に声を出す

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学 I	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・理学療法評価の一部を経験し、基礎知識の必要性を意識する。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療人となる。 ・主体性をもって行動できる、自律した医療人になる。 ・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる。 ・理想の理学療法士像を描くことができる 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。		
時間外に必要な学修			
予習：語彙力を増やすことを目的として、新聞や文献などの読書の習慣をつける 復習：敬語、丁寧語を常に使用し、社会人として適切な言葉遣いを習慣化する。			
回	テーマ	内容	
1	コミュニケーションとキャリア教育とは	・PTに必要なコミュニケーション力とは	
2	基本的な立ち居振る舞い、言葉遣い	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい挨拶のルール ・敬語の使い方 	
3	コミュニケーション実践編① 聞くスキル、質問のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴のポイント、頷き、相づち ・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン 	
4	コミュニケーション実践編② 伝えるスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・Iメッセージ、YOUメッセージ ・許可を得るための枕詞 	
5	コミュニケーション実践編③ 観察のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・みる力を養う為に ・観察した事を記録・報告する 	
6	自己実現のための方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための自己管理 ・行動目標と行動目標 	
7	社会人の常識①	・上座、下座等社会人としての一般的なマナー	
8	社会人の常識②	・TPOに合わせた服装、言葉遣いについて	
9	理学療法士とキャリア教育 1	2年生と合同授業	
10	理学療法士とキャリア教育 2	2年生と合同授業	
11	理学療法士とキャリア教育 3	2年生と合同授業	
12	理学療法士とキャリア教育 4	2年生と合同授業	
13	理学療法士とキャリア教育 5	2年生と合同授業	
14	理学療法士とキャリア教育 6	2年生と合同授業	
15	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション職種のキャリアデザイン (シービーアール) ・配布資料 		期末試験 課題・レポート	70% 30%
			その他 2年生と積極的にコミュニケーションをとりましょう

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・1年生への知識・技術の伝達を通し、自分のそれらのスキルアップを図る。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを習得する。 ・評価実習Ⅰへの参加レベルの知識・技術を習得する。 			
実務経験有無		実務経験内容	
有		理学療法士として5年以上の実務経験。 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。	
時間外に必要な学修			
予習：評価学、解剖学・運動学の教科書を読んでおくこと 復習：授業資料を再読すること			
回	テーマ	内容	
1	神経系①	課題の提示 グループ内レクチャー	
2	神経系②	グループ内レクチャー	
3	オリエンテーション	科目のねらい、到達目標について	
4	骨の名称 (上肢)	課題の提示 グループ内レクチャー	
5	骨の名称 (下肢)	グループ内レクチャー	
6	形態測定 (上下肢)	課題の提示 グループ内レクチャー	
7	リハセンター見学①	福祉センター施設見学	
8	リハセンター見学②	脳卒中片麻痺患者様の話を伺う	
9	リハセンター見学③	両下腿切断患者様の話を伺う	
10	関節の名称 (上肢)	課題の提示 グループ内レクチャー	
11	関節の名称 (下肢)	グループ内レクチャー	
12	関節の動き・可動域テスト (上肢)	課題の提示 グループ内レクチャー	
13	関節の動き・可動域テスト (下肢)	グループ内レクチャー	
14	歩行周期と関節角度①	課題の提示 グループ内レクチャー	
15	歩行周期と関節角度②	グループ内レクチャー	
教科書・教材		評価基準	評価率
各種書籍、資料等		課題・レポート	100%
			その他 施設見学は礼儀やマナーを心がけること。

**人体の構造と機能及び
心身の発達**

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学 I	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な関節について構造と機能を理解する。 ・ 筋骨格系の構造および機能と各関節運動との関係について説明することができる。 ・ 単純な動作について正しい用語を用いて説明することができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
<p>予習：事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。</p> <p>復習：骨や関節構成体、筋の名称をその都度復習し覚える。</p> <p>授業で示されたキーワードについて理解し、自分の言葉で説明できるように復習する。</p>			
回	テーマ	内 容	
1	骨格概要	授業ガイダンス 骨格を構成する骨の名称	
2	骨の構造	骨の役割と分類 骨の基本構造	
3	関節の構造と機能	関節の名称、関節の分類 滑膜性連結の基本構造	
4	関節運動の表現	方向と位置を表す用語 運動の面と軸	
5	骨格筋の構造と機能	骨格筋の基本構造、骨格筋の収縮機序 運動単位、筋の収縮様式	
6	骨、関節、骨格筋まとめ	知識の整理	
7	上肢帯、肩関節の構造と機能①	上肢帯、肩関節総論 肩甲上腕関節の解剖学的構造と運動	
8	上肢帯、肩関節の構造と機能②	腱板の機能 肩甲胸郭関節、肩鎖関節の構造と運動	
9	上肢帯、肩関節の構造と機能③	肩複合体としてみた運動	
10	肘関節、前腕の構造と機能①	肘関節と前腕の構造	
11	肘関節、前腕の構造と機能②	肘関節の運動と筋 前腕の運動と筋	
12	手関節、手の構造と機能①	手関節の構造 手関節の運動と筋	
13	手関節、手の構造と機能②	手の構造 手の運動と筋	
14	手関節、手の構造と機能③	手固有の作用と肢位	
15	上肢帯及び上肢のまとめ	知識の整理	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 (羊土社) / 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) / トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版 (大修館書店)		小テスト 期末試験	20% 80%
			その他 用語を正確に覚える

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な関節について構造と機能を理解する。 ・筋骨格系の構造および機能と各関節運動との関係について説明することができる。 ・単純な動作について正しい用語を用いて説明することができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習：骨や関節構成体、筋の名称をその都度復習し覚える。 授業で示されたキーワードについて理解し、自分の言葉で説明できるように復習する。			
回	テーマ	内容	
1	股関節の構造と機能①	下肢帯総論 アライメントと各指標	
2	股関節の構造と機能②	股関節の構造	
3	股関節の構造と機能③	股関節の運動と筋 股関節のバイオメカニクス	
4	膝関節の構造と機能①	膝関節の構造 関節包、靭帯による運動制御	
5	膝関節の構造と機能②	膝関節の運動と筋 脛骨と腓骨の連結と運動	
6	足関節、足部の構造と機能①	足関節の構造 足関節の運動と筋	
7	足関節、足部の構造と機能②	足部の構造 足部の運動と筋	
8	下肢のまとめ	知識の整理	
9	脊柱総論	脊椎、脊柱の基本構造と運動	
10	頸椎の構造と機能	頸椎の構造 頸椎の関節と運動	
11	胸椎及び胸郭の構造と機能	胸椎の構造 胸郭と呼吸運動	
12	腰椎の構造と機能	腰椎の構造 腰椎の関節と運動	
13	骨盤の構造と機能	骨盤帯の構造 骨盤帯の運動、腰椎と骨盤帯の関係	
14	頭部、顔面の構造と機能	顎関節の構造と運動 表情筋及び眼筋	
15	体軸骨格、骨盤帯のまとめ	知識の整理	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学(羊土社) / 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学(医学書院) / トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版(大修館書店)		小テスト 期末試験	20% 80%
			その他 用語を正確に覚える

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
体表面解剖学 I	理学療法学科/1年	2026/前期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、イメージできるようになる。			
授業終了時の到達目標			
上肢の骨と関節のランドマークが理解できる。 上肢の筋の位置関係が分かる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習：起始・停止・走行・作用を頭に入れて置く 復習：筋の位置関係を再確認する			
回	テーマ	内容	
1	・触察のための基本技術と注意事項 ・肩甲骨(後面)の触察	・触診の基礎と技術・肩甲骨(後面)のランドマークの名称 ・肩甲骨(後面)の各ランドマークの触察実習	
2	・鎖骨の触察 ・上腕骨の触察	・鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習	
3	・烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察	・烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察	
4	・肩関節周囲筋の触察	・三角筋、僧帽筋(上部、中部、下部)、広背筋、大円筋の触察	
5	・肩回旋筋群の触察	・棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察	
6	・肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察	・大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察	
7	・上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察	・大胸筋(鎖骨部、胸骨部、腹部線維)、小胸筋、鎖骨下筋の触察	
8	・上腕部の筋群の触察	・上腕二頭筋(長頭・短頭)、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察	
9	・前腕の骨指標の触察	・上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察・橈骨の触察	
10	・手根骨と中手骨の触察	・豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察	
11	・前腕伸筋群の触察	・肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察	
12	・前腕屈筋群の触察	・腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察	
13	・母指球筋の触察 ・小指球筋の触察	・母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋、小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解	
14	まとめ	上肢の復習	
15	まとめ	上肢の復習	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)／機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版(MEDICAL VIEW)		確認テスト 課題・レポート 期末試験	30% 30% 40%
			その他 定期的に確認テストを実施し習熟度を を確認する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
体表面解剖学Ⅱ	理学療法学科/1年	2026/後期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位(30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
骨標本や人体に触れ、骨・関節・筋の位置関係を確認する。理学療法における視診、触診や運動療法に必要な基本的事項を身につける。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 筋の配置や重なりを理解し、立体的にとらえることができる。 体表面に骨や筋の位置、走行を投影できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲のランドマークとなる部位の名称や筋の起始・停止、走行、作用について確認する。 復習：学習した内容について、自己の体で触診しながら再確認する。			
回	テーマ	内容	
1	骨指標等の確認①	骨盤および大腿骨のランドマークの確認	
2	骨指標等の確認②	骨盤および大腿骨のランドマークの確認	
3	骨指標等の確認③	膝関節周辺のランドマークおよび靭帯の確認	
4	骨指標等の確認④	膝関節周辺のランドマークおよび靭帯の確認	
5	骨指標等の確認⑤	足関節・足部のランドマークおよび靭帯の確認	
6	全身の筋の確認	全体像を把握する	
7	骨盤～大腿前面の筋の配置	筋の配置や重なりを理解する	
8	筋の触察	腸腰筋、大腿四頭筋、大腿筋膜張筋、縫工筋 長内転筋、大内転筋	
9	骨盤～大腿後面の筋の配置	筋の配置や重なりを理解する	
10	筋の触察	大殿筋、中殿筋、梨状筋 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋	
11	下腿前面の筋の配置	筋の配置や重なりを理解する	
12	筋の触察	前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋	
13	下腿後面の筋の配置	筋の配置や重なりを理解する	
14	筋の触察	腓腹筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋、腓骨筋	
15	復習	知識および手技の確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学コアアトラス(医学書院) 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹(メジカルビュー社) 		小テスト 期末試験	20% 80%
			その他
			小テストを実施し習熟度を確認する。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学 I	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
神経系(中枢神経系)の構造(つくり)及び、機能(はたらき)について教授する。			
授業終了時の到達目標			
神経系の仕組みを理解し、人間がどのように外界からの刺激を感覚として受け取り、運動しているか説明できる。又、学習・思考・判断などの高度な働きの仕組みについて説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 資料や教科書に掲載されている図を自身で繰り返し描き機能等を書き込む工夫をしながら学修する事。			
回	テーマ	内容	
1	中枢神経系の位置関係 大脳半球(脳葉)の位置関係と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳から脊髄までの中枢神経系の位置関係 ・大脳半球の脳葉、脳室等の位置関係 	
2	大脳皮質の区分と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・各皮質の区分と基本的な機能、脳回と脳溝 ・Brodmannの脳地図 	
3	神経細胞の基本構造について	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系、末梢神経系の神経細胞の基本構造 ・神経細胞体、軸索、髄鞘などについて 	
4	大脳皮質と髄質の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳皮質、髄質、髄膜 ・髄質の神経線維(連合線維、交連線維など)と神経伝達 	
5	大脳基底核の解剖と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳基底核の基本構造 ・大脳基底核と不随意運動 	
6	間脳・脳幹の解剖と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・間脳の構造と機能 ・脳幹の構造と機能 	
7	小脳の解剖と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・小脳の部位による機能の違い ・各小脳皮質の役割、小脳核、小脳脚 	
8	脳の循環と髄液循環について	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の動静脈還流、ウィリス動脈輪について ・脳脊髄液の循環について 	
9	脊髄の解剖と働き①	<ul style="list-style-type: none"> ・灰白質と白質 ・脊髄の横断面(索路分布等) 	
10	脊髄の解剖と働き②	<ul style="list-style-type: none"> ・髄節について ・高位別機能(Dermatome) 	
11	伝導路①	<ul style="list-style-type: none"> ・上行性伝導路と下行性伝導路の違い 	
12	伝導路②	<ul style="list-style-type: none"> ・錐体路の解剖について ・皮質(運動野)ー錐体路ー筋収縮まで 	
13	伝導路③	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の伝導路 ・感覚受容器ー伝導路ー皮質(感覚野)まで 	
14	反射の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・伸張反射の経路 ・反射の意味 	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・理解度の確認 	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第6版(医学書院) ・Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学(メディカルビュー社) ・配布資料 		期末試験	100%
			その他
			今後全ての授業において、必要な知識です。毎回、復習しましょう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
神経系(中枢神経系および末梢神経系)の構造(つくり)および機能(はたらき)について学習する。			
授業終了時の到達目標			
神経系の仕組みを理解し、人間が外界の刺激を感じ、運動できる仕組みを説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること 図やイラストを用いて名称を覚え、機能を書き込むように繰り返し復習をしてください			
	テーマ	内 容	
1	脳・脊髄から末梢神経の構造	中枢神経から末梢神経系へ	
2	脊髄神経の構造	末梢神経系の構造と機能 伝導路の振り返り	
3	自律神経系	構造と機能(交感神経と副交感神経)	
4	自律神経系	構造と機能(交感神経と副交感神経)	
5	脳神経系	脳神経の構造	
6	脳神経系	各脳神経の機能	
7	脳神経系	眼の運動 表情筋 咀嚼筋 嚥下に関する脳神経系	
8	脳神経系	特殊感覚(嗅覚・視覚・味覚)	
9	脳神経系	特殊感覚(聴覚・平衡感覚)	
10	脳神経系	嚥下に関する脳神経系	
11	上下肢の感覚	感覚受容器と中枢神経とのつながり	
12	上下肢の運動	運動野から伝導路 脊髄神経系 神経筋接合部	
13	脊髄神経系	上肢の運動(頸神経叢と腕神経叢の構造)	
14	脊髄神経系	上肢の運動(腰神経叢と仙骨神経叢の構造)	
15	まとめ	全身を動かす神経支配 不随的に動く自律神経支配	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) リハビリテーションテキスト 生理学(メディカルビュー社) トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版(大修館書店)		期末試験 課題	80% 20%
		その他 欠席しないよう気を付ける 復習の習慣をつける	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅲ	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。			
授業終了時の到達目標			
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学習			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること 図やイラストを用いて名称を覚え、機能を書き込むように繰り返し復習をしてください			
回	テーマ	内容	
1	内臓器の位置と役割	各臓器の位置関係と機能を	
2	血液と体液	血液の成分と赤血球の働き 体液とは	
3	血液の機能	白血球と血小板の働き	
4	細胞と血液・体液	血漿の機能 細胞	
5	循環器系の構造と機能	心臓と血管の構造 心臓の機能	
6	循環器系の構造と機能	刺激伝導系と心筋①動き	
7	循環器系の構造と機能	血圧調節について	
8	循環器系の構造と機能	全身をめぐる動脈と静脈① 大循環と小循環	
9	循環器系の構造と機能	全身をめぐる動脈と静脈② 腹部と脳 臓器循環	
10	循環器系の構造と機能	静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割	
11	呼吸器系の構造と機能	上気道と下気道 肺葉 肺区域 肺胞	
12	呼吸器系の構造と機能	吸息と呼息運動 呼吸筋について 呼吸調節中枢	
13	呼吸器系の構造と機能	肺に出入りする換気量について	
14	呼吸器系の構造と機能	肺におけるガス交換と血液によるガス交換の仕組み 外呼吸と内呼吸	
15	呼吸と循環のまとめ	振り返り	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) リハビリテーションテキスト 生理学 (メディカルビュー社)		期末試験 課題	80% 20%
			その他 欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよ うに復習すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅳ	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。			
授業終了時の到達目標			
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。			
実務経験有無		実務経験内容	
有		理学療法士として5年以上の実務経験	
時間外に必要な学習			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること 図やイラストを用いて名称を覚え、機能を書き込むように繰り返し復習をしてください			
回	テーマ	内容	
1	消化器系の構造と機能	口腔から肛門までの構造	
2	消化器系の構造と機能	咀嚼と嚥下機能 発声	
3	消化器系の構造と機能	消化と吸収 胃における食物貯蔵と輸送	
4	消化器系の構造と機能	消化と吸収 小腸・大腸の機能	
5	消化器系の構造と機能	消化と吸収 肝臓・胆のう。膵臓の機能	
6	消化器系の構造と機能	大腸と肛門の構造 排便反射について	
7	消化器系の構造と機能	消化吸収と栄養の合成	
8	泌尿器系の解剖と機能	腎臓と尿管・膀胱の構造と機能	
9	泌尿器系の解剖と機能	尿の生成と排泄 蓄尿と排尿反射	
10	酸塩基平衡について	肺と腎臓の関係 酸塩基平衡について	
11	生殖器系の構造と機能	男性と女性の生殖器系の構造と機能	
12	発生 胎児の成長	発生 受精から出産まで 胎児の成長と胎児循環	
13	内分泌系の構造と機能	ホルモンの役割 外分泌と内分泌	
14	内分泌系の構造と機能	ホルモンの種類と働き	
15	体温と代謝	体温調節、熱の産生と放散 エネルギー代謝と物質代謝	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) リハビリテーションテキスト 生理学 (メディカルビュー社)		期末試験 課題	80% 20%
			その他 欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよ うに復習する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学演習	理学療法学科/1年	2026/後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
理学療法の基礎となる生理学的知識を、理論から実際の生体反応へ結びつける。演習を通じて、各種測定技術を習得し、臨床現場で即応できるスキルを身につける。			
授業終了時の到達目標			
生理学的知識をもとに、理論と実際の生体反応とを関連付けて理解できる。 臨床現場で活用できる生理学的検査測定技術を習得することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習：該当分野のテキスト黙読 復習：生理学の復習			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	ガイダンス	
2	レポート作成①	演習に向けての解剖生理学的知識の復習	
3	レポート作成②	演習に向けての解剖生理学的知識の復習	
4	レポート作成③	演習に向けての解剖生理学的知識の復習	
5	レポート作成④	演習に向けての解剖生理学的知識の復習	
6	レポート作成⑤	演習に向けての解剖生理学的知識の復習	
7	演習計画作成と機器の動作確認	演習計画書作成	
8	呼吸数の測定と酸素飽和度 (3グループ)	呼吸数の測定、パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定、聴診器の使用方法和呼吸音の種類について	
9	演習計画作成と機器の動作確認 レポート作成⑥	演習計画書作成	
10	血圧と心拍数の測定、心電図の計測 (8グループ)	心拍数は体表での触知と聴診器を用いた計測、心尖拍動まで、心臓の電気活動を心電図を通して理解する	
11	酸素飽和度とスパイロメトリー (8グループ)	一回換気量、努力性肺活量、1秒率などを計測	
12	レポート作成⑦		
13	演習計画作成と機器の動作確認 レポート作成⑧	演習計画書作成	
14	神経伝導検査 (8グループ)	機器を用いた神経伝導速度の測定	
15	ハンドヘルドダイナモメーター (8グループ)	徒手筋力測定器を用いて筋力の数値化や疲労度を評価する	
教科書・教材		評価基準	評価率
		課題・レポート	100%
			その他 機器の操作方法については事前に予習をしておくこと

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を理解する。また、成長・発達に関係する因子と発達理論および発達評価法の概略を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。 ・ 新生児期に必要な原始反射と立ち直り反応・平衡反応が説明できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 原始反射 立ち直り反応 平衡反応は繰り返し表を見て理解すること			
回	テーマ	内容	
1	人間発達学総論	人間発達とは 発達にみられる諸原則	
2	胎児期について	発達段階と課題について (総論) 胎児期の子宮環境について	
3	出産と新生児期について	出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸	
4	乳児期の発達 (0から3か月頃)	哺乳と原始反射 姿勢の変化と身体機能	
5	乳児期の発達 (3から6か月頃)	乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応の出現	
6	乳児期の発達 (7から9か月頃)	座位保持・四つ這い・腹ばいの獲得	
7	乳児期の発達 (10から12か月頃)	歩行の獲得 平衡反応の充実	
8	原始反射と姿勢反射・平衡反応総論	脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現	
9	幼児期前半の発達課題	幼児期の遊びと学習 家庭内での学習	
10	幼児期の発達評価	幼児期の発達スクリーニング評価	
11	幼児期後半の発達	目と手の協調性 食事と嚥下機能 (哺乳から自己摂食)	
12	学童期の発達	集団での学習と発達	
13	青年期の発達	自己同一性の獲得	
14	成人期の発達	親世代の発達と役割について	
15	老年期の発達 まとめ	総括と重要ポイント復習	
教科書・教材		評価基準	評価率
イラストでわかる人間発達 (医歯薬出版)		期末試験 確認テスト	90% 10%
			その他 能動的な姿勢で臨む事

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
解剖学実習	理学療法学科/2年	2026/後期	実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司	
授業の概要				
<p>人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。人体の立体的構造を立体視できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>予習：テキスト該当箇所の黙読 復習：解剖学的位置関係と働きについて復習</p>				
回	テーマ	内容		
1	グループ成果発表1	オリエンテーション・上肢帯の調べ学習		
2	グループ成果発表2	上肢帯の調べ学習		
3	グループ成果発表3	発表（上肢帯）		
4	グループ成果発表4	下肢帯の調べ学習		
5	グループ成果発表5	下肢帯の調べ学習		
6	グループ成果発表6	発表（下肢帯）		
7	グループ成果発表7	中枢神経系の調べ学習		
8	グループ成果発表8	中枢神経系の調べ学習		
9	グループ成果発表9	中枢神経系の調べ学習		
10	グループ成果発表10	発表（中枢神経系）		
11	グループ成果発表11	内臓器の調べ学習		
12	グループ成果発表12	内臓器の調べ学習		
13	グループ成果発表13	発表（内臓器）		
14	グループ成果発表14	確認試験		
15	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）／プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		確認テスト 課題・レポート（発表）	50% 50%	TBL形式で行う

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		福田 琴
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患の理解。 各疾患の治療法を学ぶ。 自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患を理解する。 各疾患の治療法を理解する。 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。 			
時間外に必要な学修			
予習) 前回配布の資料を読み直すこと。 復習) 配布資料及び、教科書を読み直し理解できなかった言葉を学習する。			
回	テーマ	内容	
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など	
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など	
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など	
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など	
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など	
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)	
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類	
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法	
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類	
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状	
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について	
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要	
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要	
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ	
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%
			その他

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
一般臨床医学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子	
授業の概要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、代表的な疾患の概要や症状、治療について学習する。				
授業終了時の到達目標				
健康な状態を理解し、疾患を引き起こす原因、疾患の特徴や治療法の概要が理解出来る。予防医療の仕組みが理解出来る。緊急時の対応が実践できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
予習) 健康な状態を理解できるよう、解剖生理学を再学習する。				
復習) バイタルサインを測定できるよう繰り返し練習する。重要用語について教科書を読み返す。				
回	テーマ	内容		
1	診察・評価・検査の基礎知識(1) 問診・視診について	診察・評価・検査の内容		
2	診察・評価・検査の基礎知識(2) バイタルサインについて	血圧と脈拍数の異常		
3	診察・評価・検査の基礎知識(3) バイタルサインについて	呼吸数と酸素飽和度の異常		
4	診察・評価・検査の基礎知識(4) バイタルサインについて	体温調節、発熱、意識の異常		
5	診察・評価・検査の基礎知識(5) バイタルサインについて	バイタルサインと判断基準		
6	臨床検体検査	血液ガス分析・血液生化学検査・尿検査・細胞診、病理組織学的検査		
7	疾患学と症候学の基礎知識	外傷・脱水・熱中症・熱傷・感染症・生活習慣病・動脈硬化性疾患と症状		
8	疾患別の病態(検査・診断・治療)	脳神経・脊髄疾患		
9	疾患別の病態(検査・診断・治療)	神経疾患		
10	疾患別の病態(検査・診断・治療)	血液疾患		
11	疾患別の病態(検査・診断・治療)	膠原病・アレルギー・免疫疾患		
12	ショックについて	ショックについて 一般症状、種類、治療		
13	予防と救急処置	一次予防・二次予防・三次予防 救急処置の具体的内容		
14	救急法の基礎講習(1)	心肺停止とは 発見した時の対応		
15	救急法の基礎講習(2)	胸骨圧迫と人工呼吸 除細動器		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
疾患や症候の概要がわかる!臨床医学基礎のキソ(南山堂)トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版(大修館書店)		期末試験	90%	臨床で必要な帆賭場を使用するようにしてください
		実技(救急法基礎講習)	10%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション診断学	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
画像の種類や特徴などについて学び、得られる情報に気付くトレーニングを行う。 得られた情報から考えられる病態を模索する。			
授業終了時の到達目標			
異常所見、画像所見を述べることができる。 画像所見から予測できる臨床症状、それに関連する評価項目を述べるができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習：解剖学の予習 復習：画像所見と病態との関連付け			
回	テーマ	内容	
1	四肢、関節の画像①	骨盤、股関節、大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨の画像解剖について	
2	四肢、関節の画像②	骨折のX線診断ポイント、外傷におけるX線撮影判断の適応例、開放骨折と皮下骨折、骨折の分類、合併症など	
3	四肢、関節の画像③	大腿骨頭壊死、疲労骨折、Kellgren- Lawrence分類、上腕骨近位端骨折、肩関節脱臼、その他の骨折など	
4	四肢、関節の画像 (症例問題)	症例問題	
5	脊椎、脊髄の画像①	椎体と椎弓、線維輪と髄核、上下の椎骨を結ぶ靭帯、全椎骨を通じて結ぶ靭帯、頸椎の画像解剖について	
6	脊椎、脊髄の画像②	胸椎の画像解剖、腰椎の画像解剖と斜位像での映り方、頸椎MRIと腰椎MRI、異常所見について	
7	脊椎、脊髄の画像③	椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など	
8	脊椎、脊髄の画像 (症例問題)	症例問題	
9	頭部の画像①	脳脊髄液と脳室、側脳室の外景、頭部CTとMRIの画像解剖、脳血管の灌流領域、脳血管の立体構造	
10	頭部の画像②	異常所見について、T2*強調画像、FLAIR像、拡散強調像について	
11	頭部の画像③	脳血管障害のCT、MRIの特徴、出血の分類、虚血再灌流障害とその画像、動脈瘤の好発部位、頭部外傷など	
12	頭部の画像 (症例問題) 国家試験問題の読解	症例問題 (国家試験問題)	
13	胸腹部の画像①	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について	
14	胸腹部の画像②	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など	
15	胸腹部の画像 (症例問題)	症例問題	
教科書・教材		評価基準	評価率
画像診断コハク外刊 (医学教育出版社)		期末試験	100%
			グループで確認しながら学習する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション整形外科学	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (60時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科の一般的疾患に対する病態を理解する。 ・診断方法、治療方法（手術・保存）を理解し、リハビリテーションの実施に役立てる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を進める。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。			
復習) 資料を確認して復習し、小テストの対策を行う。			
回	テーマ	内容	
1	運動器の生理① (骨・関節)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の構造・分類、骨の成長と骨代謝 ・関節の構造・関節軟骨の機能 (復習) 	
2	運動器の生理② (神経)	<ul style="list-style-type: none"> ・神経の種類、シナプス伝達 ・各伝導路の復習 	
3	運動器の生理③ (筋)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋の分類 ・骨格筋の収縮、収縮の種類 	
4	運動器の整形外科、診療の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・保存療法、手術療法 ・各治療法の合併症 	
5	運動器の整形外科、治療	<ul style="list-style-type: none"> ・診察、症候、診断に利用される各種検査 	
6	骨折・脱臼①	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折・脱臼総論 ・上肢の骨折・脱臼 	
7	骨折・脱臼②	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の骨折・脱臼 	
8	骨折・脱臼③	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の骨折・脱臼 	
9	骨折・脱臼④	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の骨折・脱臼 ・脊椎・骨盤の骨折 	
10	変形性関節症①	<ul style="list-style-type: none"> ・病態、疫学 	
11	変形性関節症②	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性膝関節症、保存、手術療法 	
12	変形性関節症③	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性股関節症、保存、手術療法 	
13	関節リウマチ①	<ul style="list-style-type: none"> ・概念・疫学・病態 	
14	関節リウマチ②	<ul style="list-style-type: none"> ・関節症状、関節外症状、検査、診断 	
15	関節リウマチ③	<ul style="list-style-type: none"> ・治療、薬物療法 	
16	上肢の疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・肩関節周囲炎、腱板断裂、腱鞘炎 	

回	テ ー マ	内 容		
17	下肢の疾患	・ 大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、足部変形		
18	スポーツ外傷・障害①	・ ACL損傷、PCL損傷、足関節靭帯損傷、アキレス腱断裂		
19	スポーツ外傷・障害②	・ 野球肘、テニス肘、離断性骨軟骨炎、肩峰下インピンジメント症候群		
20	骨端症	・ Perthes病、Osgood-Schlatter病、Kohler病等		
21	骨腫瘍	・ 骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
22	先天性異常症候群	・ 先天性疾患の病態、合併症、診断、治療		
23	熱傷	・ 熱傷深度、関節拘縮の治療		
24	末梢神経損傷①	・ 末梢神経損傷の分類、病態、症状 ・ 下肢の末梢神経損傷		
25	末梢神経損傷②	・ 腕神経叢損傷、胸郭出口症候群の症状、診断、治療		
26	末梢神経損傷③	・ 正中神経、橈骨神経、尺骨神経の症状、診断、治療		
27	脊椎・脊髄疾患①	・ 脊椎、脊髄の解剖（復習） ・ 各伝導路（復習）		
28	脊椎・脊髄疾患②	・ myelopathyとradiculopathyの症状の違い ・ 脊椎・脊髄疾患の種類		
29	脊髄損傷①	・ 発生要因、病態、症状、高位診断		
30	脊髄損傷②	・ 脊髄損傷と機能的予後、リハビリテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 病気がみえるvol. 11 運動器・整形外科第2版（メディックメディア） ・ 配布資料		小テスト 期末試験	50% 50%	小テストは講義が5回終了する毎に実施

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション神経学 I	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する。			
授業終了時の到達目標			
病態に応じた適切な理学療法プログラムを立案するための基礎となる知識を身につける。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 病院勤務経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修			
予習：症状発現のメカニズムを理解するため解剖生理学の知識を確認すること 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること			
回	テーマ	内容	
1	脳血管障害総論 (1)	脳血管の構造と機能	
2	脳血管障害総論 (2)	脳血管障害の概要	
3	脳動脈と脳血管障害	内頸動脈、椎骨動脈	
4	脳梗塞 (1)	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症	
5	脳梗塞 (2)	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作	
6	脳梗塞 (3)	ワレンベルグ症候群	
7	脳出血 (1)	被殻出血、視床出血	
8	脳出血 (2)	脳幹出血、小脳出血、くも膜下出血	
9	高次脳機能障害 (1)	失行、失認	
10	高次脳機能障害 (2)	失語	
11	脳静脈・髄液循環とその障害	正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進	
12	運動麻痺	痙性麻痺、弛緩性麻痺	
13	感覚障害	ブラウンセカール症候群	
14	自律神経障害	起立性低血圧	
15	まとめ	国家試験過去問題	
教科書・教材		評価基準	評価率
病気が見える Vol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%
			その他 解剖生理学の知識を応用する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション神経学Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する。			
授業終了時の到達目標			
病態に応じた適切な理学療法プログラムを立案するための基礎となる知識を身につける。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修			
予習：症状発現のメカニズムを理解するため解剖生理学の知識を確認すること 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること			
回	テーマ	内容	
1	脳神経とその障害	脳神経の全体像、顔面神経麻痺	
2	脊髄とその障害	脊髄梗塞、脊髄空洞症	
3	末梢神経障害 (1)	GBS、CIDP、Charcot-Marie-Tooth病	
4	末梢神経障害 (2)	糖尿病性ニューロパチー、絞扼性ニューロパチー	
5	脱髄性疾患	多発性硬化症	
6	神経変性疾患 (1)	筋萎縮性側索硬化症	
7	神経変性疾患 (2)	パーキンソン病・脊髄小脳変性症	
8	筋疾患 (1)	筋ジストロフィー	
9	筋疾患 (2)	重症筋無力症	
10	代謝性疾患、感染性疾患	Wernicke脳症、プリオン病	
11	認知症	アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症	
12	頭痛、てんかん	片頭痛、部分てんかん	
13	腫瘍	脳腫瘍	
14	外傷	頭蓋骨骨折	
15	まとめ	国家試験過去問題	
教科書・教材		評価基準	評価率
病気が見える Vol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%
			その他 解剖生理学の知識 を応用する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
リハビリテーション内科学 I	理学療法学科/2年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		中嶋 志保	
授業の概要				
リハビリテーションに関係する内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
各臓器の正常な構造・機能と疾患の病態や症状について関連付けて説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
予習: 疾患レポートを作成し、レクチャーができるように準備をする。 復習: 各臓器の機能と疾患による症状を関連付け説明できるように復習する。				
回	テーマ	内容		
1	理学療法と内科疾患 呼吸器疾患①	理学療法士が内科疾患を学ぶ意義 閉塞性肺疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
2	呼吸器疾患②	間質性肺疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
3	呼吸器疾患③	調べ学習とグループ内レクチャー		
4	呼吸器疾患④	その他の呼吸器疾患について 肺水腫、急性呼吸窮迫症候群、肺血栓塞栓症		
5	呼吸器疾患⑤	その他の呼吸器疾患について 肺がん		
6	呼吸器疾患まとめ	復習 国家試験問題		
7	循環器疾患①	虚血性心疾患総論、狭心症、心筋梗塞 症状と身体所見、主な検査、治療		
8	循環器疾患②	心不全の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
9	循環器疾患③	調べ学習とグループ内レクチャー		
10	循環器疾患④	心臓弁膜症の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
11	循環器疾患⑤	動静脈疾患の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
12	循環器疾患まとめ	復習 国家試験問題		
13	腎臓・泌尿器疾患①	急性腎不全、慢性腎臓病の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
14	腎臓・泌尿器疾患② 腎臓・泌尿器疾患まとめ	調べ学習とグループ内レクチャー 復習、国家試験問題		
15	臓器連関 まとめ	臓器間の相互作用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえる Vol.2 循環器 病気がみえる Vol.4 呼吸器 病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器 (メディックメディア)		課題 期末試験	20% 80%	提出物の期限厳守

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
リハビリテーション内科学Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/後期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		中嶋 志保	
授業の概要				
リハビリテーションに関係する内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
各臓器の正常な構造・機能と疾患の病態や症状について関連付けて説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
予習: 疾患レポートを作成し、レクチャーができるように準備をする。				
復習: 各臓器の機能と疾患による症状を関連付け説明できるように復習する。				
回	テーマ	内容		
1	食道・胃疾患	H. pylori感染症、胃がん		
2	小腸・大腸疾患	小腸・大腸疾患の概要 腸閉塞、イレウスの症状と身体所見、主な検査、治療		
3	肝疾患①	肝炎総論 ウイルス性肝炎		
4	肝疾患②	急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
5	胆・膵疾患	膵炎の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
6	肝臓・胆嚢・膵臓疾患 まとめ	調べ学習とグループ内レクチャー 復習、国家試験問題		
7	代謝性疾患	糖尿病の概要 症状と身体所見、主な検査、治療		
8	内分泌疾患①	内分泌系の仕組み 作用機序		
9	内分泌疾患②	視床下部一下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎機能の異常 症状と身体所見、主な検査、治療		
10	代謝性疾患・内分泌疾患 まとめ	調べ学習とグループ内レクチャー 復習、国家試験問題		
11	免疫・膠原病①	免疫の概念と免疫系		
12	免疫・膠原病②	アレルギーの分類と特徴 アナフィラキシー		
13	免疫・膠原病③	膠原病の概要、自己免疫疾患と自己抗体 膠原病と類縁疾患		
14	免疫・膠原病④	全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎 シェーグレン症候群		
15	免疫・膠原病 まとめ	調べ学習とグループ内レクチャー 復習、国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	
病気がみえる Vol.1 消化器		課題 期末試験	20%	その他 提出物の期限厳守
病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌				
病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア)				

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		植野 英一
授業の概要			
代表的な精神疾患について学び、理学療法業務に役立てる。			
授業終了時の到達目標			
授業で説明する代表的な精神疾患の原因・症状・治療について、その概要を他者に説明できる。定期試験6割以上の正答。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修			
指定テキストを使用し、予習復習に努める。			
回	テーマ	内容	
1	授業概要の説明 精神医学とは	授業概要の説明、精神医学とは、精神障害にかかわる概念、精神障害の分類、理学療法との関連事項	
2	認知症 1	アルツハイマー病の病態、診断、治療 レビー小体型認知症の病態、診断、治療	
3	認知症 2	前頭側頭型認知症（ピック病）の病態、診断、治療 認知症の国家試験過去問題を解く	
4	アルコール依存症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
5	統合失調症およびその関連障害	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態、治療、自己臭恐怖の病態	
6	うつ病	うつ病の病態、診断、治療	
7	双極性障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
8	パニック症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
9	適応障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
10	摂食障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
11	睡眠障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
12	境界性パーソナリティ障害	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
13	自閉症	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
14	てんかん	病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
15	総まとめ	総まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
臨床につながる精神医学（医歯薬出版）		期末試験	100%
			授業中、振り返りと質問時間を設ける

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・子供と大人の違い、小児疾患について理解を深める。 ・疾患を持った子供の成長に必要なこと。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・小児科についての理解を深めることができる。 ・小児科について興味を持てる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。			
復習) 疾患の原因や内容を知ることが大切ですので教科書、資料を振り返る。			
回	テーマ	内容	
1	小児科学概論	小児の成長と発達	
2	小児科学概論	小児の栄養、保健、新生児スクリーニング	
3	小児疾患の治療	小児の検査、治療、薬物療法、水分補給、救急医療	
4	新生児、早期産児の病態	周産期の用語、出生時の評価、新生児仮死、アプガースコア、新生児黄疸、核黄疸	
5	新生児、早期産児の病態	低出生体重児、脳室周囲軟化症、頭蓋内出血	
6	先天異常と遺伝病	染色体 (常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝)	
7	先天異常と遺伝病	21トリソミー、18トリソミー ターナー症候群、心奇形、先天性代謝異常、フェニルケトン尿症	
8	神経・筋・骨疾患	脳の先天性奇形、脳性麻痺、てんかん、精神遅滞	
9	神経・筋・骨疾患	進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、発育性股関節脱臼、骨形成不全症	
10	循環器疾患	先天性心疾患、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、チアノーゼ、ファローの四徴候	
11	呼吸器疾患	上気道炎、気管支炎、肺炎、酸素療法、人工換気療法	
12	感染症	麻疹、風疹、溶連菌感染症、百日咳、結核、無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、インフルエンザ脳症	
13	消化器、内分泌疾患	腸重積、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、0-157感染症、肝炎、クレチン症、I型糖尿病	
14	その他の疾患	小児がん、白血病、アレルギー。川崎病	
15	その他の疾患	心身症、重症心身障害児	
教科書・教材		評価基準	評価率
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 (医学書院)		期末試験 課題・レポート	80% 20%
			その他 自身の言葉で感想を伝えるようにお願いします

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）	必修		宮内貴志子
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める。 ・高齢障害者における理学療法士の役割を考える。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・老化についてのメカニズムを理解する ・老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・高齢者に特有な疾病について理解を深める。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 ・復習) 重要ポイントをテキストを通じて復習する。 			
回	テーマ	内容	
1	老化と老年病の考え方	・老年学の概要・高齢者とは・加齢と老化について	
2	加齢に伴う変化：生理機能	・運動機能、感覚機能、平衡機能の低下	
3	加齢に伴う変化：運動機能	・生理的機能低下（呼吸・循環・代謝など）	
4	加齢に伴う変化：精神心理面	・知能や精神機能の低下	
5	高齢者の健康寿命	・介護予防・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム	
6	老年症候群①	・老年症候群と生活機能障害 ・老年症候群と評価方法について	
7	老年症候群②	・健忘と認知症・うつ症状	
8	老年症候群③	・認知症の症状と対応	
9	老年症候群④	・運動器機能障害	
10	老年症候群⑤	・姿勢の異常と転倒・転倒予防	
11	寝たきり予防	・長期臥床と寝たきり・二次的合併症の症状と予防	
12	症例検討	・在宅での長期療養患者の介護と理学療法	
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎	・正常な嚥下機能	
14	誤嚥性肺炎と予防	・誤嚥性肺炎の原因と予防	
15	認知症サポーター研修	高松市保健センター職員による研修会	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学（医学書院） 		期末試験 課題	80% 20%
			その他
			生理学、病理学の教科書や資料を参照

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
医学一般について幅広く知識を求めていく学問であり、疾患を理解するための基本的な用語を理解する。また病理学の一端を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な専門用語とその意味や定義などを理解する。 ・病理学の国試問題を解ける知識を習得する。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験		
時間外に必要な学修			
予習：生化学や解剖生理学の教科書や授業資料の該当箇所を一読する。 復習：課題を必ず仕上げ、 \times 切厳守で提出する。			
回	テーマ	内容	
1	病因論1	外因：物理的要因・科学的要因・栄養障害・生物学的要因 / 内因：年齢、性差、人種地域・染色体・遺伝子異常	
2	退行性病変・進行性病変1	退行性病変：変性・萎縮・細胞死	
3	退行性病変・進行性病変2	進行性病変：肥大と過形成・化生・異形成・再生と創傷治癒	
4	創傷治癒・骨折治癒過程	創傷治癒について 骨折治癒過程について	
5	循環障害	体液循環の機構、局所の循環障害（充血とうっ血、浮腫、出血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞）	
6	循環障害2	浮腫（水腫）、全身の循環障害（高血圧・肺高血圧症・門脈循環・低血圧症）	
7	感染症	感染症とは、感染症の成立、微生物の感染経路・様式	
8	免疫1	免疫の概念 免疫の成立	
9	免疫2・アレルギー	アレルギー・免疫反応がもたらす障害・疾患 移植・血液の不適合	
10	炎症1	炎症とは、炎症の原因、体液性因子、炎症の経時的変化	
11	炎症2	炎症の種類、炎症の全身への影響、炎症の転帰	
12	代謝異常1	糖質代謝異常、蛋白質代謝異常	
13	代謝異常2	脂質代謝異常、その他の代謝異常	
14	腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍	
15	まとめ	知識の定着の確認。 期末試験対策	
教科書・教材		評価基準	評価率
・配布資料		期末試験 確認問題・提出課題	80% 20%
			その他 毎回課題を出題する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション 栄養学・薬理学		理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)		必修		坂口 千恵美
<p>栄養学・薬理学は、疾患や障害の有無にかかわらず、人間の日々の生活において大きな影響をもたらす。理学療法士として、またスポーツ(運動)に必要な知識を取得する。</p>				
<p>授業終了時の到達目標</p>				
<p>理学療法士として、栄養や薬剤の知識の重要性を理解し、それらを習得する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験		
<p>時間外に必要な学修</p>				
<p>予習：生化学、病理学の授業資料を復習する。 復習：提出課題に取り組み、提出期限を厳守する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	運動と栄養の基礎理論	5大栄養素の役割、標準的な栄養のガイドライン、エネルギー消費量の構成要素、水分摂取のガイドライン、サプリメントの使用と注意点		
2	リハビリテーションと栄養①	栄養障害・低栄養とは 栄養療法とは		
3	リハビリテーションと栄養②	外因：物理的要因・科学的要因・栄養障害・生物学的要因 / 内因：年齢、性差、人種地域・染色体・遺伝子異常・免疫不全とアレルギー・老化		
4	リハビリテーションと栄養③	摂食嚥下障害への対応		
5	リハビリテーションと栄養④	各期（急性期・回復期・生活期）におけるリハビリテーションと栄養		
6	リハビリテーションと栄養⑤	健常成人・高齢者に対する栄養剤投与の効果		
7	対象と目的に応じた栄養摂取	トレーニングと栄養管理		
8	薬が作用する仕組み 自律神経	薬と受容体、血中濃度、投薬方法 交感神経作動薬・遮断薬、抗コリン薬 ほか		
9	アレルギー 血液	プロスタグランジン、ヒスタミン、セロトニン 抗凝固薬、輸血、ほか		
10	炎症 呼吸器	ステロイド薬、非ステロイド薬 気管支ぜんそく治療薬、去痰薬 ほか		
11	循環器	降圧薬、血管拡張薬、カルシウム拮抗薬 ほか		
12	消化器	胃液分泌の仕組み 消化性潰瘍治療薬、止痢薬 ほか		
13	代謝 内分泌	糖尿病、インスリン製剤、骨粗しょう症薬 甲状腺ホルモン薬、妊娠中の薬剤投与		
14	中枢神経系	パーキンソン病、抗不安薬 睡眠薬、抗精神病薬、抗てんかん薬 ほか		
15	抗菌薬 抗がん薬	細菌の種類、抗生物質、抗真菌薬 代謝拮抗薬、ホルモン薬 ほか		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
トレーニング指導者テキスト [理論編] (大修館書店) リハベリック薬理学 第2版 (医歯薬出版)		期末試験	100%	

**保健医療福祉と
リハビリテーションの理念**

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論	理学療法学科/1年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。 ・多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。 ・他職種連携、チームアプローチの重要性を説明できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：該当する科目の教科書や文献を読んでおく 復習：提出課題を課すので、 \times 切厳守で提出すること			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要 ・リハビリテーションという言葉と定義 ほか 	
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・医学的リハビリテーションの対象 ・障がい者・障がい児の実態 ほか 	
3	障害の階層とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFについて ・病気と障害の相違 ほか 	
4	リハビリテーション評価学	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の評価 ・身体所見 ほか 	
5	リハビリテーション治療学	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的アプローチ ・廃用症候群 ほか 	
6	ライフステージにおける障害特性 高齢者のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクル、障害児の特性 ほか ・サルコペニアとフレイル、老年症候群 ほか 	
7	脳損傷のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中、脳外傷、低酸素脳症との比較 	
8	脊髄損傷のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷の原因と損傷のタイプ ・機能障害と活動制限およびそれらへのアプローチ 	
9	神経筋疾患のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病、SCD、MSなどのリハビリテーション 	
10	運動器疾患のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性関節症や関節リウマチなどのリハビリテーション 	
11	呼吸器疾患のリハビリテーション 心血管系のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・肺炎、慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション ・心不全、虚血性心疾患のリハビリテーション 	
12	肢体不自由児のリハビリテーション 発達障害のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性麻痺、筋ジストロフィー ほか ・自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害 ほか 	
13	がんのリハビリテーション 災害医療とリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのリハビリテーションの特徴 ほか ・被災者に接する7つのポイント ほか 	
14	精神障害のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病など精神障害の基礎事項 ・精神障害のリハビリテーションの概要 	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・知識整理 ・国家試験問題演習 	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・リハビリテーション医学 (羊土社) 		期末試験 提出課題	80% 20%
			その他 提出課題は、内容と \times 切を合わせたの点数とする

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
理学療法士の専門性について理解し、求められる資質を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士の専門性について説明することができる。 ・理学療法士に求められる資質について説明することができる。 ・診療報酬制度および理学療法士の労働対価について理解する。 			
実務経験有無		実務経験内容	
有		理学療法士として5年以上の実務経験	
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲のテキストを読み、概要を把握する。			
復習：授業で示されたキーワードについて復習し、説明できるようにする。			
回	テーマ	内容	
1	理学療法士の専門性①	理学療法の定義 理学療法士に必要な要素	
2	理学療法士の専門性②	理学療法士の専門性を掘り下げる	
3	理学療法士の専門性③	調べ学習 理学療法室にある機器について	
4	理学療法士の専門性④	発表と共有	
5	理学療法士の専門性⑤	発表と共有	
6	理学療法業務の質の向上	EBPT リスク管理と危険予知 患者満足度	
7	医療保険制度における理学療法	医療施設の分類と保険医療 保険医療と理学療法	
8	理学療法と施設基準	疾患別リハビリテーション施設基準 診療報酬の改正	
9	理学療法士の職域と労働対価①	医療施設の定義 各職域における理学療法士の役割	
10	理学療法士の職域と労働対価②	医療保険制度の概要 診療報酬制度	
11	理学療法士に関する法律および 理学療法士の倫理	理学療法士および作業療法士法 守秘義務、自己決定権の尊重	
12	理学療法士に必要な安全管理①	アクシデントとインシデント 医療事故で問われる法的責任	
13	理学療法士に必要な安全管理②	感染の基礎知識 感染対策の基本	
14	理学療法教育	理学療法士に求められる要素 卒前教育、理学療法士の専門性とキャリア	
15	まとめ	復習 国家試験問題	
教科書・教材		評価基準	評価率
理学療法概論(南江堂) 配布プリント		課題 期末試験	20% 80%
			その他 提出物の期限厳守

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
保健医療福祉論	理学療法学科/2年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎	
授業の概要				
日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
日本の社会保障制度の背景を理解する。 リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験をもとに授業を進める。			
時間外に必要な学修				
予習：社会保障を理解するためニュースを見ること 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること				
回	テーマ	内容		
1	社会保障制度と構造改革 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度について ・日本国憲法25条について 		
2	社会保障制度と構造改革 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度概要 ・高齢化の特徴 ・社会保障の構造改革 ・少子化対策 		
3	社会保障費と医療財政 医療保険制度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費と医療財政について ・医療保険制度について 		
4	診療報酬支払い制度 医療提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬支払い制度について ・医療提供体制について 		
5	他職種連携と地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携のありかた ・地域包括ケアシステムと療法士の役割 		
6	老人の医療と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健法と老人福祉法について ・ゴールドプラン ・介護保険制度 		
7	介護保険制度概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度概要 ・地域包括ケアシステムについて 		
8	介護保険制度	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度について 		
9	障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援について ・就労支援について 		
10	社会保障制度の概念を理解する (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の各種保険について (グループ学習) 		
11	社会保障制度の概念を理解する (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の各種保険について (グループ学習) 		
12	社会保障制度の概念を理解する (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の各種保険について (グループ学習) 		
13	社会保障制度の概念を理解する (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の各種保険について (グループ学習) 		
14	社会保障制度について発表	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の各種保険について (グループ発表) 		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・国試過去問大 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる (メディックメディア)		期末試験 課題発表	70% 30%	社会情勢、保健、 医療に関わる情報 収集に努める。

基礎理学療法学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅰ	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
・骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
・骨の組織構造、骨折の分類、骨の治癒過程を説明することができる。 ・関節軟骨の組織構造、軟骨の損傷と修復過程を説明することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 骨・関節・軟骨の構造、治癒過程と臨床症状を関連づけて指導する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 配布資料・テキストを用いて授業内容の復習をする。			
回	テーマ	内容	
1	1. 長管骨の機能と基本構造、骨の組成 (細胞的要素) について	・骨の機能 (支持・保護・運動・貯蔵・造血) ・長管骨の基本構造と組成 (細胞性要素と細胞間質)	
2	1. 細胞間質要素について学ぶ 2. 骨の形成・改変過程について	・細胞間質の構成要素, コラーゲン線維の合成過程 ・緻密骨、海綿骨の形成と骨改変過程	
3	1. 骨の成長とモデリング・リモデリング 2. 骨代謝 (全身・局所的要請) について	・骨の成長と力学的要求に伴うモデリングとリモデリング ・骨代謝における骨の吸収と形成連関	
4	1. 骨によるカルシウムとの貯蔵と放出 2. 骨の血行について	・カルシウムの摂取と排泄 ・ビタミンとホルモンによるカルシウムの全身的調整	
5	1. 骨折の分類とその特徴 2. 骨折に伴う合併症	・部位・程度・骨折線の走行・転位による骨折分類 ・骨折に伴って起こる合併症 (神経損傷、感染等)	
6	1. 長管骨骨折の一次性骨癒合の過程と条件 2. 二次性骨癒合の過程と条件	・一次性骨癒合の治癒過程とHaversian modelingについて ・二次性骨癒合の治癒過程と仮骨形成	
7	1. 海綿骨の骨癒合について 2. 骨折治療における観血的治療の方法	・海綿骨の骨癒合について ・骨折治療における観血的治療の方法について	
8	1. 骨移植の病態生理について	・骨移植の分類と移植材料について ・骨移植の病態生理	
9	1. 軟骨の構造および組成 2. 関節軟骨の荷重緩衝、潤滑機構について	・関節軟骨の組成 (細胞と基質) と機能 ・荷重緩衝と潤滑機構	
10	1. メカニカルストレスや軟骨マトリックスによる軟骨破壊のメカニズムについて	・軟骨の破壊のメカニズムの種類 ・メカニカルストレスによる磨耗の過程	
11	1. 軟骨の代謝と加齢による変化 2. 軟骨損傷と自己修復機序	・軟骨の代謝回転と増殖因子 ・外傷や不動による軟骨損傷の程度と修復機序	
12	1. 関節包の構造と機能 2. 関節不動・外傷による関節包の変化	・関節包の線維膜、滑膜の構造と働き ・関節不動による関節包の変化と手術後や外傷後の関節包の変化	
13	1. 滑液の組成と正常生理 2. 関節不動・外傷による滑液の変化	・滑液の組成と疾患による変化 ・滑液の産生・運搬・吸収機構	
14	1. 関節軟骨の破壊と滑膜炎について 2. 関節炎と関節水腫の関係、各疾患の特徴	・関節炎の分類 ・関節炎による滑膜血液関門の破綻と関節水症	
15	1. 滑液包の構造と滑液包炎について 2. 膝関節水腫に対する理学療法	・滑液包の構造と分類、病理組織所見 ・膝関節水腫に対する理学療法評価と治療	
教科書・教材		評価基準	評価率
・機能障害科学入門 (九州神陵文庫) ・配布資料		期末試験	100%
			準備として1年次の骨・関節の解剖と機能を復習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)		必修		菅原 健太郎
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を学ぶ。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を学ぶ。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム（バイオメカニクス）を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を説明できる。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を説明できる。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム（バイオメカニクス）を説明できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
予習：解剖学と運動学を理解しておくこと 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること				
回	テーマ	内容		
1	靭帯損傷の治癒過程 膝十字靭帯のバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・靭帯の機能解剖 ・靭帯損傷後の治癒過程 ・十字靭帯の物性、弛緩性、不安定性 		
2	ACL再建術の基礎となるバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・前方制動性・線維束間の機能分担 ・屈曲伸展に伴う張力変化・移植腱固定に必要な初期張力 		
3	膝十字靭帯再建術におけるバイオメカニクスの応用	<ul style="list-style-type: none"> ・十字靭帯の長さ変化・十字靭帯のisometry ・力学的環境が十字靭帯に与える影響 		
4	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・各手術手技と理学療法のポイント 		
5	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・各手術手技と理学療法のポイント 		
6	腱損傷の治癒過程 アキレス腱損傷について	<ul style="list-style-type: none"> ・腱の機能解剖 ・腱損傷後の治癒過程 ・アキレス腱損傷後の修復過程 		
7	アキレス腱損傷の保存療法 アキレス腱損傷の術後療法	<ul style="list-style-type: none"> ・手術手技と理学療法のポイント 		
8	筋の構造と筋損傷	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の機能解剖 ・筋損傷と遅発性筋痛症 		
9	筋の代謝と治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の代謝 ・筋損傷の治癒過程 		
10	廃用性筋萎縮とサルコペニア	<ul style="list-style-type: none"> ・廃用性筋萎縮と加齢性筋肉減少症の定義の違い ・それぞれの発生機序と効果的なトレーニング 		
11	創傷について 創傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷の定義 ・皮膚の機能解剖 ・創傷とケロイド ・創傷の治癒過程 ・植皮の生着の過程 		
12	熱傷について 熱傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・熱傷の分類 ・熱傷の治癒過程 ・熱傷に対する理学療法 		
13	末梢神経の機能解剖 末梢神経損傷の分類機能障害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経の構造、機能、解剖、形態的分類 ・機能障害の特徴と組織の変化 		
14	末梢神経の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ワラー変性と再生 ・神経損傷に対する治療 		
15	末梢神経損傷に対する理学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価 ・運動療法と物理療法 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・機能障害科学入門（九州神陵文庫） ・配布資料 		期末試験	100%	運動学を応用する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
日常生活活動 (ADL) の概念と範囲、意義を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
ICIDH、ICFの分類が理解できる。 動作の観察、記述ができ、ADL指導や環境整備、機器の選定の提案などができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習: テキスト内容の把握 復習: 日常生活の範囲や動作の要素について考察			
回	テーマ	内容	
1	離床からの評価①	適切な自己紹介ができる、意識障害の評価ができる、バイタルサインが確認できる	
2	離床からの評価②	呼吸数、酸素飽和度が計測できる、酸素解離曲線が理解できる、問診、聴診の基本ができる	
3	離床からの評価③	筋力検査から残存髄節レベル、障害された神経が分かる、ベッドサイドで可能な整形外科的検査ができる	
4	離床からの評価④	反射検査ができる、麻痺段階の推定ができる、感覚検査が理解できる	
5	寝返り起き上がり動作	寝返りの要素が理解できる、起き上がりの要素が理解できる、特徴が記述できる	
6	立ち上がり	座位から効率よく立ち上がる動作が理解できる、国家試験問題が解ける、特徴が記述できる	
7	移乗動作	車いすからベッドへの移乗手順が言える、ベッドから車いすへの移乗の介助が安全にできる	
8	歩行動作について	歩行効率について理解できる、階段昇降について指導ができる	
9	住環境整備について	住環境整備の流れ、目的、専門職としての関わり方が模索できる、住宅改修の参考数値など	
10	訪問での視点、アセスメント	諸問題に対して助言が模索できる、訪問時でのアセスメントが理解できる	
11	ICIDHについて	ICIDHの定義が理解できる、問題点の抽出ができる、抽出した問題点が分類できる	
12	ICFについて①	ICFの概念が理解できる、分類ができる	
13	ICFについて②	ICFの分類が完成できる	
14	FIMについて	FIMの評価が理解できる	
15	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
日常生活活動学テキスト (南江堂)		実習・実技評価 課題・レポート	50% 50%
			その他 急性期から在宅までの一連の流れをつかむ

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法研究論 I	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
理学療法士として研究の必要性を理解する 研究の方法を理解し、基本的な統計処理を理解する			
授業終了時の到達目標			
理学療法士として研究の必要性を理解し、指導者の助言・指導を受けながら、基本的な研究計画書の作成を行うことができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
予習：情報科学と統計学を理解しておくこと 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること			
回	テーマ	内容	
1	研究準備①	なぜ研究が必要？/相談できる人を探す/研究のネタを探す	
2	研究準備②	研究の臨床的意義について検討する/先行研究を調べる	
3	研究準備③	対象者をイメージしておく/予備研究の準備の重要性	
4	研究企画①	研究デザインを考える/問題の定式化 (PECO、PICO)	
5	研究企画②	研究デザインを考える：観察・調査研究・介入研究	
6	研究企画③	研究計画書の作成、倫理審査の準備、臨床研究登録を行う	
7	研究計画書作成①	研究計画書を作成(グループ学習)・確認テスト	
8	研究計画書作成②	研究計画書を作成(グループ学習)	
9	研究計画書作成③	研究計画書を作成(グループ学習)	
10	発表資料作成①	発表資料を作成(グループ学習)	
11	発表資料作成②	発表資料を作成(グループ学習)	
12	発表資料作成③	発表資料を作成(グループ学習)	
13	発表資料作成④	発表資料を作成(グループ学習)	
14	発表資料作成⑤	発表資料を作成(グループ学習)	
15	発表会	プレゼンテーション(グループ学習)	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OTのための臨床研究はじめの一步 (羊土社)		課題・レポート 確認テスト	70% 30%
			その他 研究論 I～IIIを継続的に学んでいく

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法研究論Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
理学療法士として研究の必要性を理解する 研究の方法を理解し、基本的な統計処理を理解する			
授業終了時の到達目標			
理学療法士として研究の必要性を理解し、指導者の助言・指導を受けながら、統計解析や学会発表を行うことができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修			
予習: 情報科学と統計学を理解しておくこと 復習: 授業資料や教科書の該当ページを再読すること			
回	テーマ	内容	
1	研究実施①	研究を実施する/データを入力	
2	研究実施②	統計解析/二変量解析	
3	研究実施③	多変量解析/グラフ	
4	研究実施④	欠課の解釈/研究の限界/将来展望	
5	研究成果①	学会を探す/エントリーする/抄録作成	
6	研究成果②	ポスター・スライド作成/学会発表	
7	研究計画書作成①	研究計画書を作成(グループ学習)・確認テスト	
8	研究計画書作成②	研究計画書を作成(グループ学習)	
9	研究計画書作成③	研究計画書を作成(グループ学習)	
10	研究計画書作成④	研究計画書を作成(グループ学習)	
11	研究計画書作成⑤	研究計画書を作成(グループ学習)	
12	発表資料作成①	発表資料を作成(グループ学習)	
13	発表資料作成②	発表資料を作成(グループ学習)	
14	発表資料作成③	発表資料を作成(グループ学習)	
15	発表会	プレゼンテーション(グループ学習)	
教科書・教材		評価基準	評価率
PT・OTのための臨床研究はじめの一步 (羊土社)		課題・レポート 確認テスト	70% 30%
			その他 研究論Ⅰ～Ⅲを継続的に学んでいく

作成者:菅原 健太郎

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学 I	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
<p>スポーツ現場における論文の活用について学ぶ。 また、スポーツ科学分野の中で特に必要とされる体力の中から「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する。</p>			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 論文の構成や執筆手順が理解できる。 スポーツビジョンが運動パフォーマンスに与える影響について説明できる。 身体組成、視力、スポーツビジョン、筋力、持久力、瞬発力、跳躍力の測定方法が理解できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
<p>予習：解剖学と統計学を理解しておくこと 復習：授業資料や教科書の該当ページを再読すること</p>			
回	テーマ	内容	
1	論文を読むことのメリット	論文が掲載されるまでの過程, 論文を検索する	
2	論文の読み方	要約, 緒言, 方法, 結果, 考察	
3	よく出てくる統計の種類	統計の種類・解釈, 評価基準の作成方法	
4	測定実習	身体組成&視力 測定方法理解	
5	測定実習	跳躍力&瞬発力 測定方法理解	
6	測定実習	筋力 測定方法理解	
7	測定実習	持久力 測定方法理解	
8	測定実習	測定結果のFB方法理解	
9	スポーツビジョンとは	スポーツビジョンの項目, スポーツ選手の見る力	
10	ものが見えるメカニズム, スポーツビジョンと競技パフォーマンス	眼球の構造, スポーツと関連する眼の機能	
11	眼の保護, スポーツビジョンのトレーニング	スポーツビジョン測定・評価実習	
12	視力測定実習	ラボでの実習(スポーツビジョン(と跳躍:人数が多い場合))	
13	視力測定実習	ラボでの実習(スポーツビジョン(と跳躍:人数が多い場合))	
14	視力測定実習	ラボでの実習(スポーツビジョン(と跳躍:人数が多い場合))FB	
15	講義のまとめ	講義の重要ポイントの再確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
スポーツ科学トレーナーの教科書 (NPO法人スポーツ科学トレーナー学院)		期末試験	100%
			その他 実習では積極的に参加すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
食事や身体組成と運動パフォーマンスとの関連について学修する。また間欠的持久力について、その測定と評価、運動パフォーマンスとの関係、身体の生理学的応答について学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
運動とエネルギー供給系について説明できる。間欠的持久力と運動パフォーマンスの関係、トレーニング方法とその効果について理解できる。スポーツビジョン、スプリントの測定ができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習：該当分野の黙読 復習：解剖生理学（消化・吸収・栄養と代謝）の学習内容と併せて復習			
回	テーマ	内容	
1	身体組成の4つの測定方法、筋肉を増やすための方策	生体電気インピーダンス法、水中体重法、空気置換法、キャリパー法	
2	脂肪を減らすための方策、消費エネルギーと摂取エネルギー	基礎代謝量、生活活動代謝、食事誘発性熱産生 体重と栄養管理	
3	食事と運動、女性アスリートの3特徴	スポーツ選手の栄養摂取と運動パフォーマンス、トレーニングスケジュールおよび試合前・中・後の栄養管理、性差・子供・高齢者に対する配慮 摂食障害と予防	
4	身体組成測定実習	ラボでの実習（inbodyの測定 & スポーツビジョン）	
5	身体組成測定実習	ラボでの実習（inbodyのFB & 分析）	
6	運動とエネルギー代謝	3つのエネルギー供給経路	
7	間欠的スプリント中のエネルギー代謝	間欠的スプリント中のエネルギー供給	
8	間欠的持久力と運動パフォーマンス	間欠的持久力と全身持久力、間欠的持久力と運動パフォーマンスの関係	
9	間欠的運動中の疲労の原因	筋内pH、カルシウムイオン、カリウムイオン	
10	最高速度と速度維持率のトレーニング方法	最高速度および速度維持率を向上させるトレーニング	
11	瞬発力測定実習	ラボでの実習（スプリント&跳躍力）	
12	瞬発力測定実習	ラボでの実習（スプリントFB & 跳躍力との関係性の分析）	
13	ラボ実習	身体組成&スポーツビジョン&スプリント測定	
14	ラボ実習	身体組成、スポーツビジョン、スプリント測定&FB	
15	講義のまとめ	講義の重要ポイントの再確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版（大修館書店）/スポーツ科学トレーナーテキスト		期末試験	100%
			実習では積極的に参加すること

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学Ⅲ	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子
授業の概要			
スポーツ現場における論文の活用について学ぶ。 また、スポーツ科学分野の中で特に必要とされる体力の中から「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する。			
授業終了時の到達目標			
筋力増強に必要な、解剖生理学をふまえ、筋力測定の必要を学習する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習) 筋肉の起始停止や作用・関節の構造について予習する。 復習) 機器の取り扱いや測定方法は繰り返し練習する。			
回	テーマ	内容	
1	筋力を決定する要因	科学的知見から見る筋力の重要性, 筋横断面積, 神経一筋, 筋線維タイプ	
2	筋の収縮様式, 力と速度、パワー	静的収縮, 動的収縮, 筋力とパワーの違い, 力速度曲線	
3	筋力・パワーのトレーニング, 筋力と発育発達と加齢、性差	総負荷量, パワートレーニング, 発育発達と筋力のかかわり, 加齢と筋力のかかわり	
4	筋力測定実習	ラボでの実習 (BIODEX, 膝関節伸展屈曲の測定方法)	
5	筋力測定実習	ラボでの実習 (BIODEX, 膝関節伸展屈曲の測定)	
6	筋力測定実習	ラボでの実習 (BIODEX, 膝関節伸展屈曲の測定, FB)	
7	筋力測定実習	ラボでの実習 (BIODEX, 全身の筋力測定方法)	
8	跳躍のバイオメカニクス	抜重動作, 腕振り	
9	SSC運動と運動パフォーマンス	SSC運動の理論, 跳躍と運動パフォーマンスとの関係	
10	各跳躍能力のトレーニング	跳躍力を向上させるトレーニング方法	
11	跳躍力測定実習	ラボでの実習 (オプトジャンプでの跳躍力の測定方法)	
12	跳躍力測定実習	ラボでの実習 (オプトジャンプでの跳躍力測定, FB)	
13	ラボ実習	筋力&跳躍力測定	
14	ラボ実習	筋力&跳躍力測定&FB	
15	講義のまとめ	講義の重要ポイントの再確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
スポーツ科学トレーナーの教科書 (NPO法人スポーツ科学トレーナー学院)		期末試験	100%
			その他 実習では積極的に参加すること

理学療法管理学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学	理学療法学科/3年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
学生諸君が臨床場面に接するにあたり、適切な理学療法サービスを効率よく安全に提供するための管理学（マネジメント）の視点を養う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション部門の業務内容を説明できる。 ・経営、人事、労務、人材育成の管理体制について説明できる。 ・理学療法士としてのキャリアデザインを作成できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習：就職活動に向け、履歴書の作成や自己アピールの内容を考えておくこと。 復習：生活環境学や保健医療福祉論の授業資料の見直し。			
回	テーマ	内容	
1	総論	理学療法管理学の源流・理学療法管理学が必要とされる背景・理学療法管理学の構成内容	
2	病院の分類と組織	「医療法」における医療と医療圏、医療機関・病院内の組織とその役割	
3	専門職とチームケア	チームケアの必要性とその背景・専門職・医療におけるケアチームや各種委員会	
4	社会保障のしくみ	社会保障の構成要素とその役割・保険料を財源とする社会保険・税金を財源とする公的扶助、社会福祉、公衆衛生	
5	医療保険制度	医療保険制度の歴史・国民医療費・医療保険制度の体系とその概要	
6	介護保険制度	介護保険制度の特徴・介護保険制度の対象・申請から要介護認定を受けるまで・ケアプランの作成からサービス利用	
7	診療・介護報酬と収益構造	医療の値段・リハビリテーションの値段・診療報酬の支払いのしくみ・介護の値段	
8	保険・医療・介護・福祉の連携	保健・医療・介護・福祉の連携の概要 保険と医療の連携	
9	業務管理	理学療法士の業務の流れ・他職種との連携・業務、労務管理・人事考課	
10	情報管理	理学療法の業務に必要な情報と診療記録の分類 理学療法の業務に必要な記録とその管理	
11	リスク管理	医療・介護におけるコンプライアンス インシデントとアクシデント	
12	感染症管理	感染と感染症・感染症の構成要素 感染症の予防・医療機関における感染対策	
13	権利擁護と職業倫理	インフォームドコンセント（説明と同意） 個人情報保護	
14	教育管理	理学療法教育の歴史・臨床実習の管理・臨床実習の評価方法・臨床教育の管理	
15	理学療法士の政治・政策への関与	理学療法士が政治に関与しなければならない理由・職能団体としての政治への関与	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材 		期末試験	100%
			その他 提出課題も加味する

理学療法評価学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学 I	理学療法学科/1年	2026/後期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		中嶋 志保
授業の概要			
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な基本的身体機能検査法について学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報収集の方法を理解する。 ・形態測定、関節可動域測定、感覚検査、反射検査が手順に沿って実施できる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修			
予習：該当範囲のテキストを読み、概要を把握する。 復習：テキストにて、ランドマーク、基本軸-移動軸、参考可動域などを再確認し、正確に覚える。学習した検査法について実技練習を反復し習熟度を上げる。			
回	テーマ	内容	
1	総論	理学療法における評価の意義、目的 理学療法評価の過程	
2	情報収集①	医学情報の種類 病歴のとり方	
3	情報収集②	問診、記録について ロールプレイ	
4	形態測定①	形態測定の意義 形態測定の種類	
5	形態測定②	形態測定の実際 結果の記録と解釈	
6	関節可動域測定①	身体の基本肢位と運動方向 関節可動域測定の目的、測定の手順と留意事項	
7	関節可動域測定②	肩甲帯・肩関節	
8	関節可動域測定③	肘関節、前腕、手関節 手指の関節	
9	関節可動域測定④	股関節、膝関節	
10	関節可動域測定⑤	足関節、足部、体幹	
11	関節可動域測定⑥	グループ学習とチェックシートによる採点	
12	知覚検査①	表在感覚・深部感覚・複合感覚検査 結果の判定と記録	
13	知覚検査②	疾患（病態）と感覚障害 グループ学習とチェックシートによる採点	
14	深部腱反射・病的反射①	反射の定義、反射弓、反射の種類 表在反射・深部腱反射・病的反射	
15	深部腱反射・病的反射②	反射の異常と解釈、疾患（病態）と反射 グループ学習とチェックシートによる採点	
教科書・教材		評価基準	評価率
CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学 (メジカルビュー社)		小テスト 期末試験	20% 80%
			その他 反復練習し健全な 状態や反応を把握 する。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅱ	理学療法学科/2年	2026/前期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位(60時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な各種検査測定について学ぶ			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種検査測定の目的が説明できる。 ・徒手筋力検査法を正しい方法に従って実施でき、結果を判断することができる。 ・バランス検査、筋トーン検査を正しく実施でき、判断基準を説明することができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。			
復習) 検査技術の習熟度を上げる為、時間外にも自主的に実技練習に取り組む。			
回	テーマ	内 容	
1	筋力検査とは	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力検査の目的、分類、各検査法 ・徒手筋力検査法の段階づけシステムについて 	
2	徒手筋力検査法①	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・肩甲骨：外転と上方回旋、挙上、内転 	
3	徒手筋力検査法②	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・肩甲骨：下制と内転、内転と下方回旋、下制 	
4	徒手筋力検査法③	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・肩関節：屈曲、伸展、外転 	
5	徒手筋力検査法④	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・肩関節：水平外転、水平内転、外旋、内旋 	
6	徒手筋力検査法⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・股関節：屈曲、屈曲・外転、伸展 ・小テスト① 	
7	徒手筋力検査法⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・股関節：外転、屈曲位からの外転、内転 	
8	徒手筋力検査法⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・股関節：外旋、内旋 膝関節：屈曲 	
9	徒手筋力検査法⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・肘関節：屈曲 前腕：回外、回内 	
10	徒手筋力検査法⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・手関節：屈曲、伸展、 手指：MP関節屈曲、伸展 	
11	徒手筋力検査法⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・手指：PIP・DIP関節屈曲 指外転、指内転 ・小テスト② 	
12	徒手筋力検査法⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・前半の徒手筋力検査法の復習 	
13	徒手筋力検査法⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・母指：MP・IP関節屈曲、伸展、外転、内転、対立 	
14	徒手筋力検査法⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・膝関節：伸展 足関節：底屈、背屈ならびに内がえし 	
15	徒手筋力検査法⑭	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 ・足：内がえし、底屈を伴う外がえし、母趾と足ゆびのMP関節屈曲 	

回	テ ー マ	内 容		
16	徒手筋力検査法⑮ 小テスト③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 母趾と足ゆびのDIP・PIP関節屈曲、MP・IP関節伸展 ・ 小テスト③ 		
17	徒手筋力検査法⑯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 頸部筋のテスト① 		
18	徒手筋力検査法⑰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 頸部筋のテスト② 		
19	徒手筋力検査法⑱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 体幹部のテスト① 		
20	徒手筋力検査法⑲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 体幹部のテスト② 		
21	徒手筋力検査法⑳ 小テスト④	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 脳神経支配筋のテスト ・ 小テスト④ 		
22	徒手筋力検査法㉑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 脳神経支配筋のテスト 		
23	徒手筋力検査法㉒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 後半の徒手筋力検査法の復習 		
24	整形外科疾患検査①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的整形外科疾患検査 ・ 模擬患者を用いて事例検討 		
25	整形外科疾患検査②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的整形外科疾患検査 ・ 模擬患者を用いて事例検討 		
26	バランステスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスとは（静的バランスと動的バランス） ・ 各バランステスト（Romberg試験、Mann試験等） ・ 小テスト⑤ 		
27	筋トーン検査①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋トーン（緊張）とは ・ 筋トーンの診断（Ashworthの痙性スケール） 		
28	筋トーン検査②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋トーンの実際（被動性検査と懸振性検査） ・ 筋強剛の検査 		
29	事例検討①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢神経疾患に対する徒手筋力検査法 ・ 筋緊張検査 		
30	事例検討② まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科疾患に対する徒手筋力検査法 ・ 整形外科疾患検査 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学（メジカルビュー社） ・ 徒手筋力検査法 第10版（共同医書） 		小テスト 実技試験	50% 50%	実技の復習を自宅でも行う事

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅲ	理学療法学科/2年	2026/後期	実技
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必須		村上 匡司
授業の概要			
評価の概要を理解する。 評価項目の抽出、選択を行い手技を確認する。			
授業終了時の到達目標			
各疾患についての基本的な評価を行うことができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修			
予習：該当内容の手技確認 復習：結果の意義と解釈について復習			
回	テーマ	内容	
1	分離運動の評価①	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
2	分離運動の評価②	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
3	分離運動の評価③	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
4	分離運動の評価④	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
5	分離運動の評価⑤	片麻痺運動障害の特徴、Brunnstrom test、SIASなど、各検査方法について	
6	脳神経検査①	脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
7	脳神経検査②	脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
8	脳神経検査③	脳神経の働き、障害より現れる徴候、脳神経検査方法について	
9	高次脳機能検査①	各障害とその検査法について	
10	高次脳機能検査②	各障害とその検査法について	
11	協調性検査①	脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
12	協調性検査②	脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
13	協調性検査③	脊髄性失調、迷路性失調、小脳性失調、大脳性失調について、各検査方法について	
14	姿勢反射検査、正常発達	姿勢反射のレベル、姿勢反射の概要、正常発達について	
15	日常生活活動（動作）検査	FIMのまとめと国家試験問題の解説	
教科書・教材		評価基準	評価率
CrossLink 理学療法テキスト 理学療法評価学（メジカルビュー社）		実習・実技評価	100%
			実技試験はランダムに抽選、すべてを練習する

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナー	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・動作分析の概要及び方法論を教授する。 ・起立動作や歩行を分析するための理論と方法を教授する。 ・事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・動作の異常を正常と比較して解剖学・運動学の用語を用いて文章化できる。 ・動作障害の原因の仮説立案ができ、得られた情報を利用して統合と解釈ができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 自身の臨床例を用いて分析のポイントを指導する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。 復習) 授業テキスト、動画を用いて、見直しを行う。			
回	テーマ	内容	
1	動作分析の基本	・動作分析とは	
2	静止立位の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢制御のバイオメカニクス ・静止立位の重心 	
3	座位 (起立・着座動作の基本)	<ul style="list-style-type: none"> ・起立・着座動作の運動パターン ・動作のメカニズム 	
4	症例検討① (起立・着座動作)	・脳血管障害患者の動作観察と分析	
5	背臥位 (寝返りの基本)	<ul style="list-style-type: none"> ・寝返り動作の概要 ・動作のメカニズム 	
6	症例検討② (寝返り)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害患者の動作観察と分析 ・パーキンソン病患者の動作観察と分析 	
7	側臥位 (起き上がりの基本)	<ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり動作の概要 ・動作のメカニズム 	
8	症例検討③ (起き上がり)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害患者の動作観察と分析 ・パーキンソン病患者の動作観察と分析 	
9	正常歩行の基本	・歩行周期 (ラッチョ・ロム・アミーゴの定義)	
10	正常歩行のメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・床反力、各周期の関節可動域と筋力 ・歩行周期における重心の移動 	
11	症例検討④ (観察・記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経疾患患者の歩行観察 ・歩行観察の記録 	
12	症例検討⑤ (評価・解釈)	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経疾患患者の歩行に対する評価 ・評価結果の解釈 	
13	症例検討⑥ (観察・記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患患者の歩行観察 ・歩行観察の記録 	
14	症例検討⑦ (評価・解釈)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患患者の歩行に対する評価 ・評価結果の解釈 	
15	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
リハビリで役立つ 動作分析の基本 新版 (マイナビ出版)		期末試験	100%
			その他 人の基本動作の観察と分析をしっかり学びましょう

理学療法治療学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
運動療法学	理学療法学科/2年	2026/前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位 (30時間)	必修		宮内 貴志子	
授業の概要				
機能障害に対する評価を理論を、解剖・生理学・運動学を使用しながら運動療法を思考する 動作パフォーマンスを上げるために必様な基礎知識を学習する				
授業終了時の到達目標				
運動療法の概要を説明できる。 運動療法立案に必要な基本的な思考が出来る。 運動療法を実践する際に必要なリスク管理について説明できる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
予習) 筋肉の起始停止や作用・関節の構造について予習する 復習) 運動療法に必要な言葉について繰り返し教科書を読むようにする。				
回	テーマ	内容		
1	運動と運動療法	運動療法の種類 運動療法の意義 運動療法と評価		
2	関節運動	関節の構造 関節運動の制限因子		
3	筋と筋収縮	骨格筋尾構造 筋収縮 運動単位 随意運動と運動制御		
4	関節可動域運動	関節可動域運動の目的と方法		
5	関節可動域運動	関節可動域運動の目的と方法 関節可動域測定から治療を思考する		
6	筋力増強運動	筋力増強運動の基本的理論 収縮様式別の筋力増強運動 筋力測定と筋力増強運動を思考する		
7	筋力増強運動	筋力増強運動の基本的理論 収縮様式別の筋力増強運動 筋力測定と筋力増強運動を思考する		
8	持久力増強運動	持久力(筋持久力・全身持久力) 運動法強度・頻度・持続時間・運動の種類		
9	運動と呼吸・循環	運動による呼吸・循環・代謝の変化		
10	神経による運動協調性・バランス	協調性運動 失調に対する評価と運動療法 バランス運動障害に対する評価と運動療法		
11	神経による運動協調性・バランス	協調性運動 失調に対する評価と運動療法 バランス運動障害に対する評価と運動療法		
12	高齢者に対する運動	高齢者に対するトレーニング		
13	スポーツへの応用	柔軟性向上トレーニング クールダウン リカバリー		
14	傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム	アスレティックリハビリテーションの目的と手順 アスレティックトレーナーの役割		
15	まとめ	パフォーマンスを上げるために運動療法の振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学 運動療法学 総論(医学書院) トレーニング指導者テキスト【実践編】3訂版(大修館書店)		期末試験 課題	80% 20%	能動的に課題へ取り組み、臨床をイメージする

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
パラスポーツ	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		菅原 健太郎
授業の概要			
障がい者スポーツ指導者としての必要な知識を学習する。			
授業終了時の到達目標			
障がい者の特性を理解し、障がい者にとってのスポーツの意義と理念が説明できる。 スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキルが理解できる。 各種障がい特性に応じた工夫について基本的視点と方法が説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習: パラスポーツを理解するためニュースを見たりボランティアに参加すること 復習: 授業資料や教科書の該当ページを再読すること			
回	テーマ	内容	
1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質と役割	スポーツのインテグリティとは、スポーツ指導者に求められる資質、指導者の役割と業務、心構え、視点・ボランティアの心得	
2	トレーニング指導者の実務	トレーニング機器・施設管理、安全管理、情報収集と情報の活用、トレーニング指導者に関わる法律と契約	
3	パラスポーツの意義と理念	障がい者個人々の意義・スポーツ界や社会一般における意義、パラスポーツの理念	
4	コミュニケーションスキルの基礎	よい人間関係を作るために必要なこと スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル	
5	障がいのある人との交流	近隣施設にて対象者とパラスポーツを实践 障がい者にとってのスポーツの意義や価値について考える	
6	パラスポーツ推進の取り組み	我が国におけるパラスポーツ推進の現状と課題 パラスポーツ指導者制度の概要 地域の障がい者スポーツ協会など	
7	パラスポーツに関する諸施策	障がい者福祉施策とその変遷、障がい者の生活と実態 パラスポーツに関する施策	
8	安全管理	パラスポーツにおける安全管理の留意点 ヒヤリハット事例を通じて基礎的な対処法について	
9	各障がいの理解 (身体障がい)	身体障がい者 (肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がい) の特性と指導上の配慮について	
10	各障がいの理解 (身体障がい)	身体障がい者 (肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がい) の特性と指導上の配慮について	
11	各障がいの理解 (知的障がい)	知的障がい・発達障がいの特性と指導上の配慮について	
12	各障がいの理解 (精神障がい)	精神障がいの特性と指導上の配慮について	
13	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	各種障がい特性に応じた工夫の基本的視点と具体的な方法 近隣施設にて、実技を通じて用具やルールの工夫を学ぶ	
14	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	各種障がい特性に応じた工夫の基本的視点と具体的な方法 近隣施設にて、実技を通じて用具やルールの工夫を学ぶ	
15	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の歴史や開催の意義・目的 大会競技規則の原則・大会実施競技の紹介	
教科書・教材		評価基準	評価率
障がいのある人のスポーツ指導教本 (初級・中級) 公財) 日本パラスポーツ協会/トレーニング指導者テキスト【実践編】3訂版 (大修館書店)		期末試験	100%
			テキストを繰り返し読みましょう

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科疾患の理学療法 I	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (30時間)	必修		横川 光代
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の代表的骨折の病態と治療体系について学ぶ。 ・大腿骨近位部骨折を中心に一連の理学療法の流れについて学ぶ。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の代表的骨折の病態と治療を述べるができる。 ・リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験。 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修			
予習) 事前にテキストの該当範囲を読み概要を把握する。			
復習) 授業資料、テキストを用いて臨床と結び付けて説明できるように復習する。			
回	テーマ	内容	
1	大腿骨近位部骨折の概要 大腿骨頸部骨折の分類と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨近位部骨折の疫学・分類 ・Garden分類と治療法の選択 	
2	大腿骨頸部内側骨折の保存療法の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部内側骨折の臨床的特徴と適応選択基準 ・保存療法のプログラム 	
3	CCHSの手術方法と接合状況のチェックポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・CCHS手術方法 ・CCHSの接合状況のX-pチェックポイント 	
4	Hansson pin systemの手術方法と接合状況のチェックポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・Hansson pin systemの手術方法 ・Hansson pin systemのX-pチェックポイント 	
5	骨接合術におけるX-pの異常所見	<ul style="list-style-type: none"> ・cut out、back out、penetrationの意味 ・revascularizationとlate segmental collapsの関係 	
6	人工骨頭置換術 (BHP) の特徴、機構、適応、問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・BHPの工学的理念と時代変遷、バイオメカニクス ・大腿骨頸部骨折に対するBHPの適応と問題点 	
7	BHPの手術手技とX-pでの早期・晩期合併症の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・BHPの手術手技 (骨セメント使用) ・X-pのチェックポイント 	
8	大腿骨近位部骨折の周術期管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部内側骨折に対する骨接合術 (CCHS法、Hansson pin固定) の後療法プログラム 	
9	大腿骨転子部骨折の分類と治療について	<ul style="list-style-type: none"> ・Evans分類、AO分類、改訂中野分類 ・治療法の選択 	
10	大腿骨転子部骨折の治療方針について	<ul style="list-style-type: none"> ・分類と治療方針の関係 ・診断と治療 (保存療法と手術療法) 	
11	SFN法の特徴、代表的機種	<ul style="list-style-type: none"> ・SFNの代表的機種 (γ-nail、PFN、PFNA、IMHS) ・機種による治療方法の比較 	
12	SFN法の術後合併症の発生機序	<ul style="list-style-type: none"> ・術後出血の発生機序 ・内反変形と回旋転位の発生機序 	
13	大腿骨頸部外側骨折の理学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・早期リハビリテーションプログラムと早期荷重 	
14	術後固定材の周辺骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・内固定、人工骨頭後の周辺骨折について ・周辺骨折の治療とリハビリテーション 	
15	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第2版 (メディックメディア) ・運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハプログラム (メジカルビュー) ・ここがポイント! 整形外科疾患の理学療法 第3版 (金原出版) ・配布資料 		期末試験	100%
			その他
			臨床実習に必要な知識です。復習をしっかりと行いましょう。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
ペーパーペイシエントセミナー	理学療法学科/3年	2026/前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (60時間)	必修		横川 光代・中嶋 志保
授業の概要			
脳血管障害、運動器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの能力を身につける。			
授業終了時の到達目標			
事例に関してその病態の理解、評価、結果の解釈、結果に基づいた治療計画など一連の思考ができる。			
実務経験有無		実務経験内容	
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術を伝える。		
時間外に必要な学修			
予習：疾患を理解するための解剖学、生理学的知識、疾患について学習する。 発表時は前もってプレゼンテーションの準備をする。 復習：曖昧な理解で終わらせず、用語や検査法について調べ直す。 理学療法過程の展開を再確認しながら、症例の情報をその都度整理し、全体像を把握する。			
回	テーマ	内 容	
1	症例提示①	症例理解に必要な知識	
2	疾患の理解	グループ内レクチャー 予測される問題点（仮説）を挙げる	
3	主観的評価（問診）の計画	初期情報から評価項目を列挙する 問診の準備	
4	主観的評価（問診）の実施 評価項目の列挙	問診実施と記録 追加情報から仮説をたて、評価項目を列挙・整理する	
5	症例評価の準備	評価手技の確認 リスクの確認	
6	症例評価の実施	評価の実施（発表）	
7	症例評価の実施	評価の実施（発表）	
8	統合と解釈 ICFの作成と追加情報の列挙	統合と解釈 ICFに整理し、不足している情報項目を列挙する	
9	追加情報の収集	評価の実施と解釈	
10	ICF再考	ICFを再考 評価結果の関連性を考える	
11	問題点抽出からプログラム立案まで	ゴール設定とその根拠 文献検索	
12	問題点抽出からプログラム立案まで	治療プログラムの立案 文献検索	
13	症例報告	サマリー作成	
14	症例報告	サマリー発表	
15	まとめ	脳血管障害に対する理学療法過程について	
16	症例提示②	疾患に関する知識の学習	
17	基礎情報から障害像を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・症例から模擬患者の障害像を理解 ・予後含めて回復の程度やゴールの仮説を立てる 	

回	テーマ	内 容			
18	初期情報から主観的評価（問診）の 列挙	事前情報から仮説を立て、必要な問診項目を列挙する			
19	主観的評価 実技	問診の実施			
20	評価項目の列挙・収集	<ul style="list-style-type: none"> ・問診から仮説を立て、評価項目を列挙する ・情報提示 			
21	評価実技	計画した評価を効率よく実施する			
22	評価実技	計画した評価を効率よく実施する			
23	I C F 作成	<ul style="list-style-type: none"> ・統合と解釈（I C Fにて情報の整理） ・追加情報の列挙 			
24	追加情報の列挙・収集	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Fから不足している情報を整理する ・追加情報の収集 			
25	評価実技	計画した評価を効率よく実施する			
26	問題点抽出からプログラム立案まで	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Fの再考 ・評価結果との関連性を説明 			
27	問題点抽出からプログラム立案まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール設定、治療プログラム立案 ・文献検索 			
28	症例報告	サマリー作成			
29	症例報告	症例発表			
30	まとめ	運動器疾患の理学療法			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえるvol.7 脳・神経 （メディックメディア） ・運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法 とリハプログラム（メジカルビュー） ・ここがポイント！整形外科疾患の理学療法第3版 （金原出版） 		脳卒中） 運動器疾患）	提出物 発表・授業態度 提出物 発表・授業態度	60% 40% 60% 40%	自分の考えを積極的に表出すること

地域理学療法学

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境学 I	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (30時間)	必修		坂口 千恵美
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本における障害者や高齢者が安全に、安心して生活できるよう、理学療法士として助言や情報の提供を上手くできるようになる。 ・患者を取り巻く環境について、社会資源や福祉用具について学ぶ。 ・毎時間、復習を目的とした小テストを実施する。 			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の生活環境について意識づけできる。 ・保健医療福祉を必要としている他者にうまく伝授できる。 ・障害者・高齢者の福祉用具を用いた生活環境を整えることができる。 ・国家試験の福祉用具、介護保険問題を解けるようになる。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修			
予習: PT概論の授業資料の再読			
復習: 提出課題を厳守で提出する			
回	テーマ	内容	
1	生活環境学の概念と障害の捉えかた	ICIDHとICFの理解 環境因子について	
2	福祉用具 (移動補助機器) ①	つえ・歩行器・歩行車	
3	福祉用具 (移動補助機器) ②	車いす	
4	福祉用具 (移動補助機器) ③	疾患、障害別による移動補助機器を考える	
5	福祉用具 (移乗機器) ①	リフトとスリング、トランスファー機器	
6	福祉用具 (移乗機器) ②	疾患、障害別による移乗機器を考える	
7	福祉用具 (生活関連機器) ①	ベッド周辺機器、排泄用具他	
8	福祉用具 (生活関連機器) ②	疾患、障害別による生活関連機器を考える	
9	福祉住環境整備の共通基本技術 1	段差解消、床材の選択、手すりの取り付け、建具への配慮、	
10	福祉住環境整備の共通基本技術 2	スペースへの配慮、家具・収納への配慮、冷暖房への配慮、非常時への安全と緊急装置の考え方、維持管理	
11	生活行為別福祉住環境整備の手法 1	外出、屋内移動、入浴	
12	生活行為別福祉住環境整備の手法 2	更衣・洗面・整容、調理と食事、就寝	
13	疾患別に見た福祉住環境整備 1	<ul style="list-style-type: none"> ・CVA疾患 ・廃用性症候群 	
14	疾患別に見た福祉住環境整備 2	<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷 	
15	まとめ	国試の過去問で知識確認	
教科書・教材		評価基準	評価率
配布資料		期末試験	80%
		提出課題	20%
			その他

臨床実習

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習	理学療法学科/1年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位 (45時間)	必修		村上 匡司・宮内 貴志子
実習の概要			
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・保健、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。 ・臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。 ・実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。 ・模倣、実践、振り返りの中で習得方法を学ぶ。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。			
実習内容			
1. 各教育領域における実習内容			
1) 情意領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。 ・患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。 ・早期より地域に目を向け、通所もしくは訪問リハビリテーションの見学などを通じて、地域包括ケアシステムにおける理学療法士や関連専門職の役割を理解する。 ・診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。 			
2) 認知領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どの様な工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。 ・臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。 			
3) 精神運動領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 ・コミュニケーション論等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。 			
2. 目標達成のため教育ツールを使用する			
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する			
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 	総括評定 課題	80% 20%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I	理学療法学科/2年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位 (90時間)	必修		菅原健太郎・中嶋志保
実習の概要			
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル(情報処理過程)を学ぶ。 受動的学習から能動的学習へとシフトさせることを学ぶ。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。			
実習内容			
1. 各教育領域における実習内容			
1) 情意領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> この過程を通じ、多くの気づきを得ることで、今までの受動的学習から患者志向の能動的学習へシフトさせる。 			
2) 認知領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士が実践している危険の予見や禁忌事項の確認といったリスク管理について考える。 患者情報を既存の資料や、直接問診、間接問診によって収集したデータと、検査測定を通して得たデータを指導者の詳細な解説を受けながら統合を繰り返し模倣することで情報処理過程を学ぶ。 			
3) 精神運動領域の実習内容			
<ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ徒手筋力検査、反射検査、筋緊張検査等を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 臨床実習指導者の指示監督下での医療面接で、患者の生活状況や家族、社会での役割、かかえる問題と患者のディマンドやニーズを理解し患者像を把握する。 			
2. 目標達成のため教育ツールを使用する			
1) 目標達成のため以下の①～⑤の教育ツールを使用する。			
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習教育の手引き PT・OTのための臨床技能とOSCE機能障害・能力低下の介入編 	総括評定 課題	70% 30%	

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
総合臨床実習 I	理学療法学科/3年	2026/前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
8単位 (360時間)	必修		坂口千恵美・横川光代
授業の概要			
学校が連携している施設において、臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする ・デイリーノート、学生カルテ、自己研鑽ノートの作成は毎日行うこと			
内 容			
1. 各教育領域における実習内容			
1) 情意領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。 			
2) 認知領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 評価実習で経験した認知的スキル（結果の解釈レベル）をさらに積み重ね、解決策（治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。 			
3) 精神運動領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を 模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。 			
2. 目標達成のため教育ツールを使用する			
1) 目標達成のため以下の①～⑥の教育ツールを使用する。			
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表 ⑥レジュメ			
2) 実習終了後上記⑥を用いての症例報告会を学内にて実施する。			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編	総括評定 実習後OSCE	80% 20%	実習前後に客観的 臨床能力試験を行 う。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
総合臨床実習Ⅱ	理学療法学科/3年	2026/後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
8単位 (360時間)	必修		坂口千恵美・横川光代
授業の概要			
学校が連携している施設において、臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。 			
実務経験有無	実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修			
翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする ・デイリーノート、学生カルテ、自己研鑽ノートの作成は毎日行うこと			
内 容			
1. 各教育領域における実習内容			
1) 情意領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。 			
2) 認知領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 評価実習で経験した認知的スキル（結果の解釈レベル）をさらに積み重ね、解決策（治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。 			
3) 精神運動領域の実習内容 <ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を 模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。 			
2. 目標達成のため教育ツールを使用する			
1) 目標達成のため以下の①～⑥の教育ツールを使用する。			
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト ④学生カルテ ⑤学生評価実施表 ⑥レジュメ			
2) 実習終了後上記⑥を用いての症例報告会を学内にて実施する。			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編	総括評定 実習後OSCE	80% 20%	実習前後に客観的 臨床能力試験を行 う。

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
理学療法学科

令和8年度

授 業 概 要

2026年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
〒761-8056 香川県高松市上天神町722-1
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>